

KANTOU

かんとう



特集／古紙再生促進センター

創立50周年記念式典

委員会トピックスー安全防災委員会

支部だよりー茨城県支部・神奈川県支部

東京都西支部・埼玉県支部

新年号

神奈川県支部 秋季研修旅行 福島県



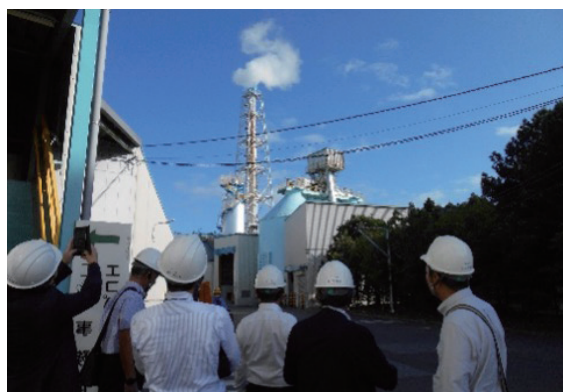
いわき大王製紙・集合写真



いわき大王製紙・2号抄紙機



いわき大王製紙・新段置場



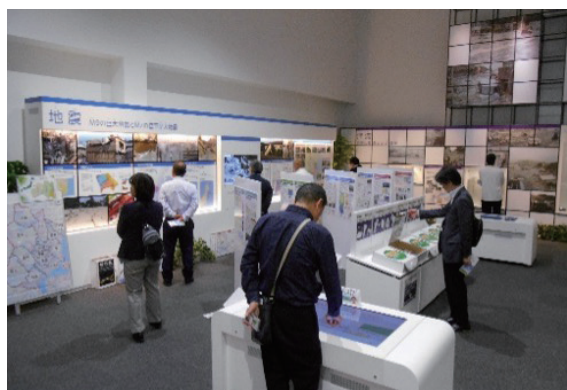
いわき大王製紙・バイオマスボイラー



初日昼食 まるかつ にて



ホテルハワイアンズ・集合写真



いわき震災伝承みらい館 にて



2日目昼食・いわき・ら・ら・ミュウ・海鮮バーベキュー



令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと元日から能登半島地震が発生、翌日には羽田空港で日航機と自衛隊機が衝突、炎上という波乱の幕開けとなりました。また自民党の裏金問題が発覚したのも1月でありました。3月には日銀が実に17年ぶりにマイナス金利解除を決定しました。7月さらに0.25%まで政策金利の上昇を決定。

パリオリンピック、パラリンピックで大いに盛り上がっている最中に岸田首相が退陣を表明しました。

9月には自民党総裁選で石破氏が新総裁に就任。10月石破内閣が発足しましたが、その後の衆院選において自公が惨敗し過半数割れとなりました。針の孔を通すような政権運営が続いております。

11月にはアメリカの大統領選においてトランプ氏が勝利し1月20日には大統領に指名されます。アメリカファーストを掲げ輸入品に関税をかけると表明したことからアメリカへ駆け込み輸出が始まり当面は日本からも輸出しづらい状況が続くと聞いております。

さて古紙業界であります但し個々の企業あるいは組合にとって一番の問題は取り扱い数量の減少です。

古紙をこれまで以上に増やすのは雑紙の掘り起こししか手立てがありません。古紙業界が主体的に行政へ働きかけ、焼却されている雑紙を掘り起こしましょう。

2番目に人手不足問題です。業界に人が入ってもらう為には魅力ある賃金もさることながら、若い人の中では休日問題が応募の前提という方が増えているのが現状です。

休日問題は地域の事情もあることから支部長会議を開催した結果、営業所ごとに休日の現状アンケートを行い、一都六県で荷受けを行わないで休日をとっているヤードが実に4割を超している現状がわかりました。

支部長により支部会を開催して頂き、本年3月までに方向性のご報告を頂く予定となっております。

例えば1.プレス機を回さない2.輪番制でヤード営業3.休日の時短を進める4.週に一日休日とする等、できるところから始めていって頂きたいと考えます。

もちろん回収業界や行政、回収団体等ご意見を賜りながら進めていかなければなりません。扱い量、労働力ともに益々減少していく中で次の世代につなぐために業界の働き方を変えていきましょう。

最後になりますが、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます年頭のご挨拶とさせていただきます。



年頭にあってご挨拶申し上げます。皆さま明けましておめでとうございます。

令和七年新春を迎え、組合員の皆様には福を呼び幸せをもたらす一年にしようご一家で団欒をされたと思います。しかし昨年元旦早々に能登半島地震が起こり、未だに復旧に至っていないのは誠に残念です。また異常気象が全国各地で線状降水帯による大雨を降らして大変な年でした。

スポーツでは昨年、日本中が大いに沸き盛り上がりました。特にパリ五輪で多くの日本人選手が活躍しメダルラッシュでした。また、大リーグでは大谷翔平選手の「50-50」(54 本塁打 59 盗塁)の活躍でロサンゼルス・ドジャースがリーグ優勝、そしてワールドシリーズを制覇しました。日本のプロ野球では横浜 DeNA ベイスターズがリーグ 3 位から日本シリーズで優勝し、文字通り下克上を果たしました。

一方、一般社会ではロシアとウクライナ、ガザでの戦闘が終息する気配はありません。対話による解決は遠のき、力による支配が強くなっているのは気がかりです。又、総選挙で自公が過半数割れとなりました。石破総理の低姿勢が長く続くかどうか、新年度予算がしっかりと組めるかどうか心配です。そして米国ではトランプ大統領が返り咲き、お隣の韓国では戒厳令騒ぎで政治が混乱しています。世界の政治、経済は先が見通せず一層の不安感が高まっております。そんな中、製紙産業も何らかの形で影響を受ける年になるでしょう、

昨年の公益財団法人古紙再生促進センター創

立 50 周年に於いて古紙の発生は年々減少することが示されました。昨年の 12 月には経産省素材産業課が情報メディアのデジタル化の進展に伴い、新聞発行部数が年々減少を続けていること、このため古紙新聞の回収量が減り数年以内に新聞の消費量が回収量を上回る事態になることが予想されとの問題意識が提起され、関係者で意見交換会を始めています。これについては今後、製紙会社と原料業界とがこれまで培ってきた関係を大切にしながら話し合ってさらに連携を深め対処する以外方法はないと私は思います。

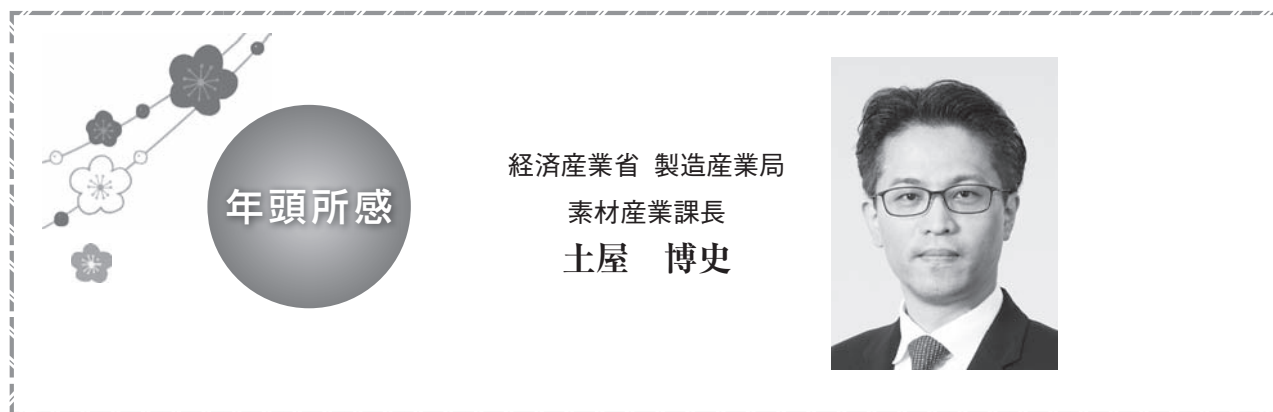
本年も分別の徹底を図りながら古紙の需給バランスを見極めることが第一ですが、我々も人口減少時代の中で持続的な経営を推進しなくてはなりません。

全原連では持続可能な経営の推進検討委員会において次の 3 点に取り組むことになりました。それには第一に労働時間短縮のため地域で話し合いによる休日受け入れ、第二に人手不足対策として女性従業員と外国人労働者の活用、第三に適正な車間距離の確保です。

古紙の発生が減る中、各地区の組合で充分に話し合って、デジタルファクトリーを考えて旧来の古紙業界から脱皮する第一歩にしたいと思っております。

サーキュラーエコノミーの実現には業界の貢献が欠かせません。古紙業界の挑戦と一層の発展のためにご協力をお願い致します。

今年こそ世界が分断せず戦火が収まり平和が訪れることを祈念しましょう。



令和7年の新年を迎え、謹んでお喜び申し上げます。また、平素より経済産業行政に対する深いご理解と格別のご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

いま、世界は大きな転換期を迎えています。ウクライナ侵攻の長期化等による地政学リスクの高まりや、AI等の技術革新の加速化、気候変動をはじめとした地球規模課題に対する各国政府の関与の強まり等、様々な構造的変化が生まれています。

そのような中、30年ぶりとなる水準の賃上げ、100兆円を超える攻めの設備投資、史上最高値水準の株価、そして名目GDPが初めて600兆円という大台を超えるなどの成果があります。一方で、足下の物価高を背景に、消費は力強さを欠いています。物価高に負けない持続的な賃上げを実現し、これを更なる消費と投資へ繋げていくため、経済産業省としても、皆様からの様々な声を踏まえ、引き続き全力で取り組んでまいります。

昨年末に案が示されたGX2040ビジョンでは、「GX産業構造」、「GX産業立地」、「GX加速に向けたエネルギー分野」などの取組を総合的に検討し、GX実現に向けた長期的な見通しが書かれました。GXに向けた取組は、サプライチェーン全体でのマーケットイン型の製品供給と組み合わせてビジネスチャンスにつながる成長戦略そのものとなっています。

他方、“Hard-to-abate”（排出削減が困難なセクター）と言われる産業分野でのGXの実現は

容易ではありません。実現への課題に対応すべく、グリーンイノベーション基金を活用した、CO₂からの機能性化学品製造技術などを開発するプロジェクトを着実に進め、その成果の実装を追求するとともに、GX経済移行債を活用した、排出削減に資する製造プロセス転換や燃料転換への設備投資支援、GX-ETS（排出量取引制度）の検討などを引き続き行ってまいります。

また、産業特性を踏まえたグリーン市場の創造についても、GX製品の価値の「見える化」の取組など様々な施策を組み合わせることで進めていきます。

また、本年は大阪・関西万博の開催年であり、開催まで約3ヶ月となりました。万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとし、世界中の来場者を出迎え、「未来社会の実験場」として最先端分野を発信・社会実装する機会となります。ぜひ、ご家族やご友人と一緒に足を運んでいただきますようお願い申し上げます。

新たな時代に向け、経済産業省としては、これまでに述べたような様々な施策を総動員し、業界の皆様とも連携しながら、紙・パルプ産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。紙は我々の生活には欠かせない生活必需品であります。引き続き国民の生活を支えていただくとともに、我が国産業にとっても重要な役割を果たしてゆかれることと期待申し上げます。新しい時代を迎えるにあたって、皆様の御健康と御多幸を、そして素材産業の更なる発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



2025 年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症から年間を通して解放され、正常な国民生活と経済活動が取り戻された1年となりました。景気は年前半、インバウンドが復活する一方、諸物価の高騰から買い控え傾向が続き一進一退を繰り返す状況となりましたが、年後半に、賃上げや政策減税等の効果の発現により個人消費を中心に内需が回復基調となっている経済情勢は、紙・板紙需要にも好影響をもたらすものと期待しているところです。

本年については、大阪・関西万博の開催も控え、景気は穏やかな持ち直し基調が維持されとの見方が一般的ではありますが、米国トランプ次期大統領の関税引き上げ等の保護主義的な政策運営や停滞する中国経済の行方、さらには長引くロシア・ウクライナ戦争、混迷を深める中東情勢等の地政学リスクが最も懸念されるところとなっています。

こうした経済情勢の下、2023 年度の各社の収益は、価格修正の浸透や資源価格高騰の一服感から前年度に比し増収・増益傾向となったものの、2024 年度は紙・板紙販売数量の減少や円安の定着によるコストアップ、賃上げ対応による人件費の増加や 2024 年度問題への対応による物流費の増大等が収益を圧縮する要因となっています。

本年の紙・板紙需要に関しては、内需主導の景気回復やインバウンド需要による影響を期待するものの、グラフィック用紙を中心に依然として厳しい状況が続くものと考えています。

日本製紙連合会といたしましては、製紙産業の持続可能な発展をここ数年キーワードに掲げ活動しておりますが、本年も引き続き業界の共通課題の解決に取り組むとともに、会員各社の経営努力が結実するようタイムリーかつ的確な環境整備や情報提供に努めてまいります。

具体的な事業としては、気候変動対策に関する諸課題への対応があります。政府においては GX 社会構築の実現に向けた政策を段階的に実施する中で、現在 2026 年度の排出量取引制度の本格稼働に向けての枠組み作りが進められております。当業界にとっては、相当数の会員企業が枠組みに関係することになることから、制度の概要とともに、参加が義務化された場合の負担等に最大限の関心をもって注視

していかねばなりません。日本製紙連合会は、製紙業界が政府の方針に則り 2030 年度 38%削減の目標を掲げ、順調に削減を実行していることを前提として、無理のない制度設計となるよう経済産業省をはじめ関係機関に要望しているところです。

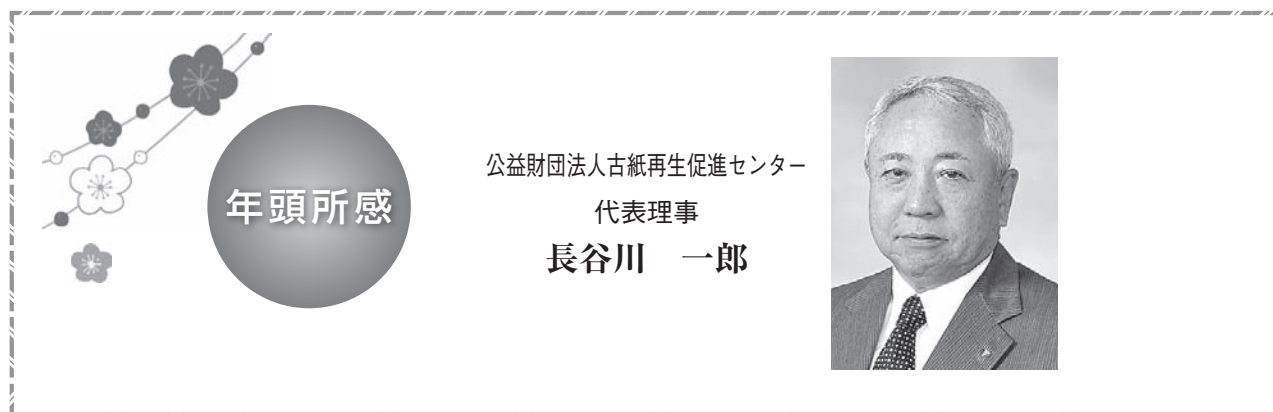
また、紙・板紙の素材としての重要性、役割や価値を改めて見直して行くことも重要であります。欧米における書店数の増加や教育現場での紙の教科書への回帰等、紙ならではの特性が見直されてきている事象がある中、再生可能なバイオマス原料を活用するという他の産業にない環境優位性等を十分に生かした事業展開・情報発信をすることが重要と考えています。

すなわち、製紙産業は、森林の適正管理により CO₂ の吸収・固定に寄与し、製造段階における省エネや黒液利用によりサーマルリサイクルの推進、高度な古紙リサイクルシステムの構築、廃棄物の削減といった取組を通じ、資源循環型経済（サーキュエコノミー）を先進的に実現させてきた産業であり、それらの取組をさらに深化させた生産活動を継続していくことが SDGs の提唱する持続可能な社会形成に貢献していくことになります。

加えて、木材から繊維を取り出し、パルプを作り、紙・板紙の様々な製品を製造してきた技術の蓄積を活かしたセルロースナノファイバーの用途開発をはじめ、バイオリファイナリー製品の開発といったイノベーションへの取組にもスポットを当て、未来志向型の成長産業としての方向性を示していくことも必要であります。そして、こうした総合的な取組や努力を発信し、広く多くの国民各層に製紙産業の真の姿を理解してもらうことは、持続可能な成長産業を支える優秀な人材確保の面でも重要な一面を持つものと認識しております。

本年の干支「巳」のイメージは「再生と変化」であります。製紙産業は、時代の変化にその都度対応しながら国民生活や経済活動を支える役割を果たしてきました。事業を取巻く大きな環境変化に直面している現在、まさしくその変化に柔軟に対応し、産業として新たな再生への歩みを進める1年となることを祈念しています。

最後になりますが、関係各位の今年1年のご健勝、ご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年のが我が国経済におきましては、内閣府の月例経済報告において、景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復しているとされております。

他方、昨年11月のアメリカ大統領選挙に勝利し、本年1月に就任予定の第2次トランプ政権は、追加関税や移民規制の強化、減税などの政策を掲げていることから、貿易や金融市場を通じて世界各国に影響が及ぶ可能性があることに十分留意する必要があります。

国内政治の面を見ますと、昨年10月に、岸田政権に代わり、新たに石破政権が誕生しましたが、同月に行われた衆議院選挙において、政府与党は、過半数割れの議席となり、不安定な政権運営を強いられることとなりました。かかる状況において、政府は、昨年11月に国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策として、日本経済・地方経済の成長や物価高の克服などを柱とする39兆円規模の補正予算を閣議決定したところです。

さて、古紙を取り巻く状況を見ますと、近年、古紙の発生が低調に推移し、古紙の回収量が漸減傾向にあります。現に、昨年1月～10月までの古紙回収量は、1,400万トン弱にとどまり、一昨年より、約50万トン減少のペースです。

このことは、製紙業界や古紙業界における古紙の需給や在庫量等に、少なからず影響を及ぼしている状況にあります。

当センターといたしましても、我が国の紙リサイクルシステムの維持・向上を目指し、需給両業界と常に意見交換をしつつ、需給の安定化を図ってまいりたいと存じます。

こうした中、平成20年に施行された公益法人

認定法が、昨年5月に初めて改正され、その改正法が本年4月から施行されることとなりました。本改正の趣旨は、財務規律の柔軟化や行政手続の簡素化、自律的なガバナンスなどの所要の見直しを行うことにより、公益法人が有する潜在力を最大限に発揮して、多様で変化の激しい社会のニーズに柔軟に対応しつつ、社会的課題解決に向けた活動を期待するものであります。

このため、当センターは、同趣旨にかんがみ、平成23年に公益財団法人として認定されて以来の実績を踏まえ、更なる信頼確保に取り組むこととし、ガバナンスの充実や透明性の向上等を図り、ひいては、新しい資本主義が目指す「民間も公的役割を担う社会」の実現に貢献してまいり所存です。

本年も製紙業界、古紙業界にとって大変厳しい状況が続くかと思われませんが、当センターといたしましては、我が国の紙リサイクルの健全なる発展に影響を及ぼさないよう、行政、製紙業界、古紙業界、回収業界など、様々なステークホルダーの方々と多様な交流を推進し、相互理解を深め、古紙市場、経済動向についても知見を深め、今後とも安定した紙リサイクルを目指してまいります。

また、製紙業界、古紙業界をはじめとする様々な紙リサイクル関係者の叡智を結集し、紙リサイクルの促進の要として諸活動を進めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、我が国の古紙の需給・市況が安定し、需給両業界が長期的な共存体制を確立させ、将来に向けて明るい展望が開けますことを願うとともに、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた良い年となりますよう心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

関東商組 理事会報告

令和6年度 第5回 理事会報告

令和6年9月24日（金）15:00～16:30

於 組合会議室

出席…21名 理事：20名 監事：1名

議事要旨

1. 古紙持ち去り関係

(1) GPS 追跡調査実施状況

正規ルート2件（東京都青梅市）

（7月理事会〈7/19〉～本理事会〈9/24〉）

2. 各支部市況報告

（記載省略）

3. 持続可能な経営の推進

週1回の休業日の設定に関する具体的な議論の場として支部長会議を活用する。

10月中旬までに支部長会議を開催する。

4. 組合員の法定脱退

福田三商(株)が3営業所（栃木県・小山営業所 千葉県・八千代営業所 東京都・東村山営業所）を(株)もっかいトラストに譲渡し、中小企業等組合法第19条により脱退することが承認された。

5. 集団回収感謝状贈呈団体の推薦

各支部から推薦のあった13団体を古紙センターに推薦する。

6. 充電式小型家電の回収事例

去る9/13に東京都町田市からヒアリングした内容の報告があった。

量販店におけるバッテリーの取り扱いと不要になった扇風機つき作業着の回収実態を把握する必要があるとの意見が出された。

7. 委員会等の管掌

(1) 総務財務委員会（9月17日開催）

8月末現在の収支状況の報告があった。

(2) 正副理事長・委員長合同会議（9月17日開催）

8. 近代化推進委員会報告

(1) 経営革新委員会（8月7日・9月9日開催）

段ボール原紙需給速報、古紙輸出実績の資料を基に意見交換を行った。

古紙リサイクルアドバイザー及び品質管理責任者の試験問題を精査した。

(2) 安全防災委員会（9月6日開催）

秋季リーフレット及び防火ポスターの図案を決定した。

かんとう No.227 目次

年頭所感	1
関東商組理事会報告	6
三紙会定例会報告	9
特集	12
古紙再生促進センター 創立50周年記念式典	20
委員会トピックス	20
安全防災委員会	22
六地区懇談会	24
支部だより	24
茨城県支部・神奈川県支部 東京都西支部・埼玉県支部	38
新社長紹介	40
三紙会TWEET	40
中央会表彰式	44
編集人の後記	44



表紙写真

紙の街・静岡県富士市。人口約24万人。
思えば懐かしい大昭和製紙の本社があり、
本州製紙の富士工場と競っていました。
家庭紙の製紙工場も四国と両雄の富士市。
北側にどこからも仰げる巨大な富士山、
南側は海産物が豊富な深海の駿河湾です。
渉外広報・IT委員会 相談役 須長利行

11/18に中国商組の紙縁会と合同会議を開催する。

年明け3月頃に安全衛生推進者養成講座を開催する。

- (3) 需給委員会（7月30日・8月27日開催）
9月の段ボール見積もり合わせはいずれの月もベトナム向けで成立した。国内外の市況報告を行った。

- (4) 三紙会（令和6年8月度）

	前月比(%)	前年比(%)
段ボール	94.4	100.1
新聞	94.9	92.6
雑誌	93.0	98.1

- (5) 渉外広報・IT委員会

9. その他

各種統計資料

1. 関東商組 32社古紙在庫月別報告書（2024年8月）
2. 財務貿易統計 古紙輸出まとめ（2024年6・7月）
3. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報（2024年7月）
4. 日本製紙連合会 紙・板紙品種別生産・出荷・在庫高表（2024年7月）

◎次回開催 令和6年10月25日（金）15：00～
場所 組合会議室

令和6年度 第6回 理事会報告

令和6年10月25日（金）15:00～16:30
於 組合会議室
出席…18名 理事：17名 監事：1名

1. 古紙持ち去り関係

- (1) GPS 追跡調査実施状況
正規ルート1件（東京都青梅市10月4日セット）
持ち去り1件（埼玉県所沢市10月3日セット）
(2) V社 古紙持ち去り行為防止に関する報告
10/25付 第2回目の内容証明郵便による申入書送付

次回3回目には事業者名を示して警告した事実を公表する旨通知

2. 各支部市況報告

（記載省略）

3. 持続可能な経営の推進

第1回支部長会議（10/9開催）報告
古紙ヤードの運営実態に関するアンケート調査内容の取りまとめ

11/1 調査書を送付（対象：全ヤード）

11/8 回収期限

4. 電力料金の削減

新年会当日（1月16日）15：30～16：30
ホテルラングウッドにて説明会を開催

5. 各会議報告

- (1) 総務財務委員会（10月18日開催）
9月末現在の収支状況の報告があった。
(2) 正副理事長・委員長合同会議（10/18開催）

6. 近代化推進委員会報告

- (1) 経営革新委員会（10月8日開催）
段ボール原紙需給速報、古紙輸出実績の資料を基に意見交換を行った。
古紙リサイクルアドバイザー及び品質管理責任者の申込・更新申請等の運用構築。
(2) 需給委員会（9月26日開催）
10月の段ボール見積もり合わせはベトナム向けで成立。国内外の市況報告を行った。海外視察の実施を検討。（ベトナム・マレーシア、インド・韓国の2班）
(3) 三紙会（令和6年9月度）

	前月比(%)	前年比(%)
段ボール	98.2	99.4
新聞	99.7	93.6
雑誌	100.1	96.5

(4) 渉外広報・IT委員会

かんとう編集部会（9/24開催）
かんとう 226号校正（10/20発行）
227号企画

7. その他

各種統計資料

1. 関東商組 32社古紙在庫月別報告書（2024年9月）

- 2. 財務貿易統計 古紙輸出まとめ (2024 年 8 月)
- 3. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報 (2024 年 8 月)
- 4. 日本製紙連合会 紙・板紙品種別生産・出荷・在庫高表 (2024 年 8 月)

今後の開催予定

第 7 回 11/25 (月) 第 8 回 12/23 (月)
終了後忘年会 第 9 回 年明け 2/21 (金)
第 10 回 3/21 (金)
開催時間 いずれの回も 15:00 ~ 16:30
1 月は休会

令和 6 年度 第 7 回 理事会報告

令和 6 年 11 月 25 日 (月) 15:00 ~ 16:30
於 組合会議室
出席…21 名 理事:19 名 監事:2 名

1. 古紙持ち去り関係

- (1) GPS 追跡調査実施状況
正規ルート 1 件 (東京都青梅市 11 月 6 日セット)

2. 各支部市況報告
(記載省略)

3. 持続可能な経営の推進

古紙ヤードの運営実態に関するアンケート
調査結果報告
3 月末までに各支部で検討

- ①方向性 ②問題点 (課題) の抽出及び対策案

- 4. 新聞古紙不足に関する意見交換会への対応
引続き国内優先供給に努める
そのための環境整備 (回収コスト等の上昇を踏まえたメーカー購入価格の適正化) が必要
持ち去り古紙を取り扱わないよう商社に要請する
他用途利用もある
原料古紙の配合調整による古紙需給調整
クローズド・ループシステムによる回収の動きへの対応
新聞古紙の動向 (発生量・回収量・消費量の見通し) の継続的把握・情報共有を行う

- 5. 古紙の需給等に関するアンケート調査 (経産省→全原連会員各社)
関東商組は古紙在庫月別報告協力各社 (32 社) が調査に協力する

- 6. 新年賀詞交歓会の開催
次第等が原案通り承認された

7. 各会議報告

- (1) 総務財務委員会 (11/15 開催)
10 月末現在の収支状況の報告があった。
- (2) 正副理事長・委員長合同会議 (11/15 開催)

8. 近代化推進委員会報告

- (1) 経営革新委員会 (11/21 ~ 11/23 研修会)
段ボール原紙需給速報、古紙輸出実績の資料を基に意見交換を行った
古紙リサイクルアドバイザー及び品質管理責任者の申込・更新申請等の運用構築
未来の戦略について議論した
- (2) 安全防災委員会 (11/18 移動委員会)
広島にて中国商組の紙縁会と次年度の安全ポスターの作成等について意見交換を行った
- (3) 需給委員会 (10/28 開催)
11 月の段ボール見積もり合わせはベトナム向けで成立
国内外の市況報告を行った
海外視察の実施を検討した
- (4) 三紙会 (令和 6 年 10 月度)

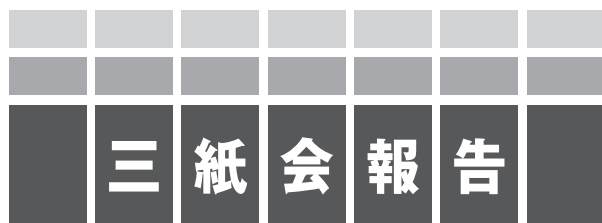
	前月比 (%)	前年比 (%)
段ボール	104.3	102.7
新聞	103.9	92.9
雑誌	103.8	98.6

各種統計資料

- 1. 関東商組 32 社古紙在庫月別報告書 (2024 年 10 月)
- 2. 財務貿易統計 古紙輸出まとめ (2024 年 9 月)
- 3. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報 (2024 年 9 月)
- 4. 日本製紙連合会 紙・板紙品種別生産・出荷・在庫高表 (2024 年 9 月)

次回開催予定

12/23 (月) 15:00 終了後忘年会



令和6年度 9月 定例会

日 時：令和6年9月25日(水)

15時30分～17時00分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：小池 茂男・(株)小池商店

岩崎 達弥・栗原紙材(株)

報告者：金井 大輔・(株)藤川紙業

出席社：23社

【令和6年8月

裾物主要三品仕入実績報告 (34社)】

[段ボール] 前月比 94.4% 前年比 100.1%

[新聞] 前月比 94.9% 前年比 92.6%

[雑誌] 前月比 93.0% 前年比 98.1%

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区平均単価：段ボール…10.36円、新聞…
12.73円、雑誌…4.96円

仕入価格に大きな変動はない。台風の影響により若干、エリア毎で入荷量にばらつきが出た。

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告 (8月度対日価格)

[NBKP] \$ 価格 905 前月比 -\$ 40

[LBKP] \$ 価格 685～735 前月比 -\$ 120

[総括] 北米マーケットでは、中国マーケットと欧州マーケットでの価格下落や7月に価格が下落しなかった影響もあり、NBKP・LBKPともに今年初めて下落に転じた。欧州マーケットにおいては、洋紙の需要低下に加えて、中国マーケットとの価格差を考慮した価格交渉が行われ、特にLBKPは価格下落が顕著であった。中国マーケットでも欧州マーケット

同様、LBKPの下げ幅が大きかった。

〈NBKP〉中国でも紙・板紙需要の低迷が続いており、中国マーケットでも価格が下落した。一方、供給面においては、以前より懸念されていたカナダでの鉄道ストライキは短期間で収束したものの、カナダの大手サプライヤーがパルプ製造に必要なチップを十分確保できないという理由により、2つあるパルプ製造ラインのうち1ラインを無期限停止した。フィンランドでは、一部の大手サプライヤーが9月に休転する。供給数量が、ある程度制限されるため、LBKPに比べて値下げ幅は限定的であった。

〈LBKP〉中国マーケットでも価格が大幅に下落した。供給面においては、ブラジルでは大手サプライヤーが新工場(約255万t/年)を稼働開始、中国でも大手サプライヤーが新パルプライン(約170万t/年)を稼働開始した。供給数量の増加が見込まれるなか、中国マーケットを中心に需給が低迷しているため、世界的にバイヤー有利な価格交渉が行われた。

(2) 上物市況報告

[全体の状況] 8月の紙・板紙国内出荷量は前年同月対比で3.3%の減少であった。7月に23ヶ月ぶりに増加したが再び減少した。需要が力強さを欠く中、地震や台風が出荷に影響した。
[家庭紙] 家庭紙メーカーは全般的に販売・生産とも予想範囲内。災害特需も収束しており、落ち着いている。しかしながら昨今の古紙発生悪化から、今後強いタイト感が出る可能性あり。白板の生産が好調のため、ミックス系の原料が取合いになると思われ、価格対応のタイミングを探る状況。

[白板] 生産が好調で、大手メーカーによる原料調達の動きが活発になっている。その一方、8月は大型台風の影響で行楽需要やインバウンドに影響が出たことで需要に響き、在庫が積み増された可能性あり。

●研究委員会：9月新聞・チラシ重量調査の協力依頼

●その他：10月28日に四国（愛媛県松山市）で
開催される六地区懇談会へ参加

●藤川理事長より

・持続可能な経営の推進に向けて

〈取扱減少対策〉古紙センター主導で、雑がみ等新たな古紙区分の制定による発生量の掘り起こしのために町田市の小学校1～6年生に袋を渡し、夏休みの期間だけ雑がみを集めたところ3t程度集まった。こうした活動を通して古紙センターだけでなく全原連・関東商組も共同で取組んでいく。

〈人手不足対策〉求人募集をしても集まらない状況があり、日曜日は出たくないという従業員の声もあるなか集団回収やスーパーの毎日回収など、対顧客先との絡みもあり、すぐに大幅な改善が難しい部分がある。まずは各支部・ブロックで現状確認と「日曜日を休める業界にしてく」という課題に対して議論を行い取りまとめて頂きたい。

※定例会終了後、藤川理事長を交えた懇親会が開催され、業界を取り巻く諸問題について意見交換が行われた。

次回の三紙会は【10月24日(木)15時30分～】

活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入実績報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会報告

令和 6 年度 10 月 定例会

日 時：令和6年10月24日(木)

15 時 30 分～17 時 00 分

場 所： 関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：岩 渕 昭之・(株)斎藤英次商店

山口 直・(株)國光

報告者：川嶋 秀明・(株)ナコジ

出席社：17社

[illegible]

【令和 6 年 9 月

裾物主要三品仕入実績報告 (33 社)】

〔段ボール〕 前月比 98.2% 前年比 99.4%

〔新 聞〕 前月比 99.7% 前年比 93.6%

〔雑誌〕 前月比 101.1% 前年比 96.5%

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区平均単価：段ボール…10.44 円、新聞…
13.01 円、雑誌…5.09 円

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告 (9 月度対日価格)

[NBKP] \$ 価格 870 前月比 - \$ 35

[LBKP] \$ 価格 615 ~ 665 前月比 - \$ 70

〈NBKP〉針葉樹パルプについては、広葉樹パルプのような増産計画がなく、さらには、カナダでの慢性的なチップ不足に加え、フィンランドにおいても、チップ価格の高騰や需要低迷等を背景に UPM 社カウカス工場（70万t／年）、キュミ工場（87万t／年）を休転。これらの複数の要因により、価格動向は中国ではほぼ前年同値で推移し、北米、欧州でも \$20～30 程の小幅な値下げに留まった。

〈LBKP〉広葉樹パルプは南米や中国を中心とした大型パルプマシンの増設に伴って、供給過剰の傾向となっている。また、需要低調な状況が続いていることもあり、需給は買い手有利な状況。中国紙業新聞によると、中国では家庭紙工場を有するメーカー中心に、2024 年上半年期までで 390 万 t、9 月から 12 月までに 230 万 t、合計 620 万 t 規模の新パルプマシンが稼働予定とし、その約 7 割は自社用途への使用と報じられている。全世界の外販パルプの半分近くを消費する中国のパルプ輸入量の動向は、今後の需給バランスに大きく影響を与えると考えられる。

(2) 上物市況報告

〔全体の状況〕 9月の紙・板紙国内出荷量は前年
同月対比で28%の減少であった。塗工紙や段

ボール原紙など主要品目は軒並み減少。全般的に需要の回復が遅れる中、白板は3ヶ月連続で増加した。

[家庭紙] 9月迄は地震などの特需があったものの、現在は揺り返しで製品の動きは良くない状況。メーカーの原料入荷状況は思ったより悪くなく足元の強い逼迫感はないが、これから秋需・冬需に向け活発化するとみられ、原料調達は積極的。

[白板] 生産は好調で引き続き旺盛な買い付けを行っており、雑誌系の引き合いは強い。足元の逼迫感が強く、原料操短の懸念有り。一方で国内需要に力強さを感じないため、強い生産が継続されるかは不明。

●研究委員会：9月新聞・チラシ重量調査結果報告

●財務委員会：原価構成比調査（2023年度）結果報告

次回の三紙会は【11月21日(木)15時30分～】

活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入実績報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会報告

令和6年度 11月 定例会

日 時：2024年11月21日(木)

15時30分～16時45分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：持永 毅・三弘紙業(株)

濃田 博康・(株)齋藤商店

報告者：相田 寛文・(株)丸興佐野錦一商店

出席社：20社

【令和6年10月

裾物主要三品仕入実績報告（33社）】

[段ボール] 前月比 104.3% 前年比 102.7%

[新聞] 前月比 103.9% 前年比 92.9%

[雑誌] 前月比 103.8% 前年比 98.6%

[総括] 新聞の回収量は減る一方であり、未だ

に底が見えない。

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区平均単価：段ボール…10.51円、新聞…13.23円、雑誌…5.18円

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告

報告なし

(2) 上物古紙市況報告

[家庭紙] 地震特需の揺り返しや、寒さの本格化が遅いことから製品の動きは鈍足だったが、今月末位から徐々に年末らしい動きになると予想されている。再生ロールは更なる製品値上げが必要であるが、大手パルプメーカーとの足並みがなかなか揃わず、むしろ値下げ圧力がかかっている状況。

原料入荷状況は思ったより悪くないが、年末年始の日並びの悪さから積み増しが必要。

[白板] 生産は好調で引き続き旺盛な買い付けを行っており、雑誌系の引き合いは強い。輸出雑誌の高騰の影響からタイト感が強まっている。製品需要が年始も続くかは不透明。

●研究委員会：令和6年12月度の新聞・チラシ重量調査の協力依頼。

●その他：六地区懇談会（10月28日愛媛県松山市にて開催）の報告。

次回の三紙会は【12月18日(水)15時30分～】とする。

活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入平均単価報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会活動報告

※定例会後に17時30分から忘年会を開催する。

特集／創立50周年を迎えた古紙再生促進センター



寄稿／株式会社 紙業タイムス社

古紙再生促進センターは今年、1974年の創立から50周年を迎えた。これを記念して去る10月16日、同センター主催によるシンポジウムならびに祝賀会を、東京・大手町の経団連会館で執り行い、全国から約370名が参集した。シンポジウムでは、紙リサイクルに関わる課題や、その対応へのヒントから、持続的な社会づくりに向けて考えることを目指し、各界から6名の講師を招聘した。

まず、記念シンポジウム開催に当たり、長谷川一郎・代表理事が主催者を代表し登壇した。その後、前半の講演に移り、最初に細田衛士・東海大学副学長、政治経済学部経済学科教授／慶應義塾大学名誉教授／中部大学理事、学事顧問、名誉教授が「紙リサイクルの新たな挑戦」と題する基調講演を行った。

休憩を挟み後半では、パネリスト5名によるリレー形式での事例紹介が行われた。登壇した5名のパネリストと発表テーマは以下の通り。

▽次なる50年へ／田崎智宏・国立環境研究所資源循環社会システム研究室室長▽包装設計か

ら見る『紙化』への期待と課題／内村元一・(株)パックエール代表取締役社長・包装技術コンサルタント▽ごみの減量化・資源化に向けて／横山亜紀子・神奈川県伊勢原市経済環境部清掃リサイクル課資源循環係係長▽持続可能な社会づくりのための環境教育の推進／關口寿也・全国小中学校環境教育研究会会長 東京都多摩市立連光寺小学校校長／▽日本から学ぶ資源リサイクル：インドネシア人留学生の視点／ファティマ・シャクラ・アズハリ・京都大学大学院地球環境学舎環境教育論分野修士課程2回生。司会は、山本耕平・ダイナックス都市環境研究所代取会長が行った。シンポジウム終了後は、記念祝賀会に移った。長谷川代表理事の開会挨拶の後、来賓祝辞に、土屋博史・経済産業省製造産業局素材産業課長、野沢徹・日本製紙連合会会長、飯田俊夫・日本再生資源事業協同組合連合会会長の各氏が登壇した。

大久保信隆・全国製紙原料商工組合連合会理事長が乾杯の発声を行い、小貫裕司副理事長の中締めで閉会となった。

需給両業界の弛まぬ努力で 世界トップ水準の紙リサイクルを実現

長谷川一郎 / 代表理事

当センターは、半世紀前から一貫して、古紙の回収および利用の促進に努めてきた。その成果もあって、わが国の紙リサイクルは世界トップ水準にあり、これは当センターのみならず、古紙需給両業界の弛まぬ努力と紙リサイクルに対する国民の皆様のご理解・ご協力によるものだ。

他方、古紙を取り巻く環境は、循環型社会への転換、経済のグローバル化、国内の紙・板紙生産量・消費量の減少、アジア諸国の経済成長に伴う紙・板紙生産量の拡大など、大きく変容しつつある状況だ。

こうした環境変化の中で、わが国が抱える紙リサイクルにおける課題は大きく捉えると、以下の3つに集約できると考えている。

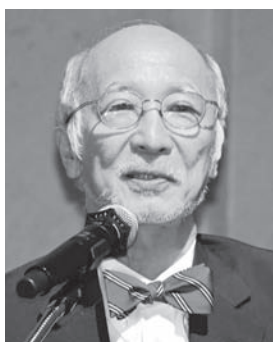
1つ目に「古紙の発生量および供給量の減少」、2つ目に「古紙品質の低下」、そして3つ目に「紙リサイクルシステムの維持」だ。

当センターはこれら3つの課題解決に向けて、需給両業界やステークホルダーとコミュニケーション強化を通じた持続的な古紙の「回収・利用の拡大」、「安定供給の確保」、「品質の維持・向上」などを目指し、事業の展開を進めてまいり所存だ。

紙リサイクルの新たなる挑戦

細田衛士 / 東海大学副学長政治経済学部
経済学科教授、慶應義塾大学名誉教授、
中部大学理事学事顧問名誉教授

これまで、紙や古紙はリサイクルの優等生と言われてきた。これは、製紙会社などの動脈側と、古紙回収業者や古紙問屋などの静脈側との間で、調和や需給バランスが長らく保たれていたことが



大きな理由だ。

この需給バランスが崩れた時代もある。過去を振り返ると、1997年の春に古紙価格が急落し、逆有償化という紙リサイクル最大の危機があった。この時は業界の努力もあって、輸出販路の拡大などから逆有償が徐々に解消し、リサイクルも概ね正常に戻った。そして今、新たな第2の危機が迫っている。現在、プラスチック問題として、上質の使用済みプラが外国に高値で買われ、われわれのところには悪いものが残る現象が起きている。これは古紙も同様で、良質の古紙が海外へ流出してしまっている。確かに古紙回収率77%、古紙利用率65%という達成割合は非常に高いが、今後、何が起きるのか分からない。この第2の危機はやや複合的で、人口減少や労働者不足、デジタル化による紙需要減少など、問題解決が難しい。皆で知恵を出し合わなければならず、既存のビジネスモデルでは対応できない。

一方、プラ容器包装から紙が使われるという代替も進むが、多層ラミネート構造になってリサイクルしにくいという問題が出てきた。社会における少子高齢化、雑がみの増加、古紙品質の低下といった問題もある。古紙業界だけでなく、プラ業界もそうだが、動静脈が時代の波に乗り遅れているのではないだろうか。

今後の紙リサイクルにおいて再設計、再構築を進め、サーキュラーエコノミーの推進に向けて連携協力することがキーポイントだ。

*

次なる 50年へ

田崎智宏 / 国立環境研究所
資源循環社会システム研究室室長

次なる50年の展望する上で、大きくは二つに分けて話をしてみたい。一つは未来とどう向き合っていくのか、もう一つは課題山積の時代の中でチャンスの潮流にどのように乗っていくのか、についてだ。

「座して待つか、働きかけるか」というキャッ



チを掲げたが、このアプローチは二つに大別できる。すなわち内部要因を重視するか、それとも外部要因（変化）を重視するか、の違いだ。前者は、最初に自分達がありたい理想像を掲げ、向かうべき方向の認識を共有する行き方。後者は、もし将来こんなことが起きたらどうする（What if ?）という対処療法型のアプローチである。同じ未来学の分野でも、いかに将来と向き合うかによって、いろんなタイプがある。

さて、現在はグローバルレベルにおける環境負荷の増大と複合危機という状況にある。世界は、この50年ほど「大加速」(Great Acceleration)と呼ばれるような、いろいろな危機の時代にあった。まさしく古紙再生促進センターが1974年に設立された以降は、この大加速の時期にあったような状況だ。その状況がずっと続いては、グローバルな複合危機問題などに対応できないという問題意識から、国連をはじめ多くの機関で方向転換というハンドルを切ったり、減速というブレーキをかけたりしてきた。

古紙再生促進センターの「サステナブルチャレンジ2050」には、2050年はどうなるのかという中長期的な見通しがある意味、かなりのファクトとして、客観的でしっかりとした推測のもとに描かれている。

未来学の知見からいうと、これまでいろいろ手法が開発されてきた。例えばシナリオ分析する時には現状から考える「フォアキャスト」、一旦2050年など遠い先から後戻りするような感じで考える「バックキャスト」などが開発された。また、将来を考える上でも気づいてない将来に気づくのはなかなか難しいことから発想法を変え、創発的手法として「強制発想法」や、まだこの世に存在しない将来世代だったらどう考えるかという「フューチャー・デザイン」などの手法も提案されてきた。

近年はEBPM(Evidence - Based Policy Making)、すなわち証拠に基づいて政策を立案しようという動きが官公庁の中でも出てきている。さらにそれを一歩進めないと、現在の複雑で複合的に絡み合っている問題に対応できない。これがイノベーションとも関係するのだろうと思うが、ビジョンを総括するようなアイデアの

出し方をしないとイケない。

さて、もう少しグローバルレベルでの資源利用と環境影響について考えてみたい。

日本の1990年代、特にリサイクル関連の法律がたくさんで始めた時点から30年間で、世界の資源利用量は倍ぐらい変化している。日本を含む上位10カ国が資源の65%を使っているという状況にあるが、資源をたくさん使うことによって、気候変動の50%、大気汚染の30%、生物多様性喪失の90%が引き起こされているというのが今の状況だ。

グローバルレベルでこれを抑え込むためにはそもそも資源の利用、希少な資源をきちんと使うという認識から、地球環境全体に負荷を与える資源消費だという認識に変えて取り組む必要がある。

それからもう一つ、古紙業界の外側で起きていることとの調整も必要になる。紙の世界で起きていることだけでなく、例えばプラスチックの分野で起きていることも視野に入れながら今後を考えなければならない。

包装設計から見る「紙化」への期待と課題

内村元一 / パックエール代表取締役社長・
包装技術コンサルタント

包装の設計、すなわち動脈側の立場で、包装設計からみる紙化への期待と課題について話をしたい。

まず、世界の潮流と国内の動向という包装の動きを三つの視点から見る。

すなわち、①包装設計、②ラベル表示、そして③法規制になる。

まず包装設計だが、設計に関しては2022年、世界包装機構(WPO)が「PACKAGING DESIGN FOR RECYCLING」(=リサイクルのための包装設計ガイドライン)を発信した。簡単に言うと、こういう設計にすればリサイクルしやすいという規範を示したもの。

ガイドラインは当然、素材別や包装形態別に分かれており、紙についても基準を設けてシス



テムが組まれている。シンプルに言うと、今はパッケージの設計段階からリサイクルを考慮する必要があるという流れになっている。

二つ目にラベル表示がある。商品を手に取ると、パッケージには環境に関係するようさまざまなラベル（情報）が印刷されている。FSC 認証であったりエコラベルであったりと、その製品が環境に配慮していることを生活者にアピールするような形のマークがたくさんある。

さらに、識別表示ラベルという容器包装リサイクル法に基づいた形で「〇マーク」というものを見ていくと、素材の重量比で重たい素材をマーク化することがある。実際、50%以上紙が使われていれば紙マークがついてしまっている現状がある。

しかし周知の通り、紙マークはリサイクルができることを示しているわけではない。ただ包装設計する側からすれば、紙化というトレンドは紙マークを付けること、それと見た目を紙にすることで減プラや脱プラを標榜することが大きな目的にあった。結果的には、この紙化というトレンドによってリサイクルできない、もしくはリサイクルする時に、その障害となるような製品が増えてきてしまっているということも、実態としてはある。

では海外はどうか。世界では「On-Pack Labelling（オンパックラベリング）」という言葉がある。これは、生活者がその商品を実際に使い終わって捨てる段階の時にその表示を見ると、この包装はリサイクルできるのかできないのかを示す表示になる。

米国には「How2Recycle（ハウツー・リサイクル）」という表示制度があり、4種類のマークがあって斜線があるとリサイクルできないなど、分かるようになっている。同様に、オーストラリアにも「Australasian Recycling Label（オーストラレーシア・リサイクリングラベル）」というのがある。

続いて三つ目は法規制。この方面に関してはEUが先行しており、「包装と包装廃棄物規則」（PPWR）というものがある。日本のプラスチック資源循環戦略と対比してみると、EUの場合、容器包装やプラスチックが大きくクローズアップされており、再生材やバイオプラを使おうと

いう動きや、捨てた後にリサイクル可能な設計にして回収・返却のシステムを導入するよう要求している。そして、これはすべての包装および包装廃棄物を対象にするという動きが今整理されつつある。マイルストーンとして、「紙・段ボール」については、2025年に75%、2030年には85%のリサイクル目標を立てている。

では、日本はどうか。2019年以降のプラスチック資源循環戦略では3Rという観点からさまざまな取組みが並行して行われているが、具体的な動きとしては、2022年4月のプラスチック資源循環法（通称：プラ新法）と言われるものが包装業界に大きな影響を与えている。

そういった意味では今、プラスチックの業界で言うところ、ゴミから資源化する動き、それと「プラスチック＝悪」のような感じで印象づけられてしまったことから、現在は企業や自治体の取組みを含め、プラスチックも循環に向けて大きく動いているのが現状だ。以上、三つの視点から見てきたが、基本的には資源循環「サーキュラーエコノミー」の取組みが必須だというのが動脈側の動きになる。

それを踏まえて、紙化への話に移るが、パッケージ業界で強いインパクトがあったのが『キットカット』の紙化である。これは大きなニュースだった。これ以降、さまざまな製品の紙化というアプローチを目にするようになり、包装に紙を使う用途が増えてきた。これは当時、脱プラと減プラがトレンドで、たとえ一部でもプラスチックを紙に置き換えることによって「〇t削減した」とアピールする表現が非常に受けていた。ほとんどの企業では、紙化の概念を「外観を紙にすること」と捉え、生活者が概して紙包装の製品を選ぶから、重量比で50%以上を紙の比率にして紙マークを付けるのが目的になってしまっていた。その結果、ラミネートを施してあったり、コーティングしてあったりと、生活者では識別できないような内側の包材構成がある多種多様な状態になり、これが静脈サイドのリサイクルを少なからず困難にしているとみられる。

ところが時代は変わり、サーキュラーエコノミー＝資源循環という流れになると、包装動脈側がやらなければいけないのは、リサイクル可能

な紙製包材による紙化だ。ただし、汚れがなく、ラミネートしていないものとなると、紙が活躍する場は残念ながら現状だと少し縮小してしまうかもしれない。

今後、紙化市場を拡大していくためにもリサイクルしやすい設計という動脈側の動きと同時に、リサイクルのスキームをしっかりと構築し、紙の設計をこうすれば確実に資源循環できるんだといった流れになればよいと思う。

そうした中で、構造設計側もいろいろな取組みを行っている。例えば、紙とコーティング剤のみのバリア性のある紙を使った包材や、使う時はプラと紙が一緒だが捨てる時は汚れがあるところのフィルムを剥がし、基板はきれいな状態でそのまま分別回収できる設計など、いろいろなアイデアも出ている。

大切なのは1社で頑張っただけの話ではなく、サーキュラーエコノミーという輪の中で幅広い企業を含んだサプライチェーン全体で情報や知恵を出し合い、取り組むこと。さらに消費者の行動変容を促進することが大切だ。

ごみの減量化・資源化に向けて

横山亜紀子 / 神奈川県伊勢原市経済環境部
清掃リサイクル課資源循環係係長

伊勢原市は人口約10万1,000人の都市で、神奈川県を中心に立地している。伊勢原市ではゴミ分別を23種類とし、大きく「燃やすごみ」、「不燃ごみ」、「粗大ごみ」、「資源物」の4種類に分けている。



「燃やすごみ」はこれまで、はだのクリーンセンターの200t焼却炉と伊勢原市清掃工場の90t焼却炉で処理していた。しかし2023年度末に伊勢原市清掃工場は老朽化により稼働を停止。燃えるごみは、はだのクリーンセンターだけで処理する必要が出てきた。

ここ数年来、伊勢原市の大きな課題は、ごみ焼却施設が1ヵ所でも安定的に処理できる体制づくりを構築すること。当初、伊勢原市清掃工

場の焼却炉は2025年度末に稼働停止の予定で、安定的に処理できる量である2万2,040t/年を目標に減量化に取り組んでいた。しかし一定程度の減量化の進展を背景に、費用対効果の面から稼働停止時期を2年前倒しすることとなり、燃やすごみも2年前倒しで目標値まで削減することが急務となった。

結果として、23年度は目標値を168tほど下回る2万1,872tまで減らすことができたが、予断を許さない量であるため引き続き減量に向けて取組みを進めているところだ。

こうした中、2022年度に新たな分別啓発政策として「雑紙（がみ）救出大作戦」を開始した。きっかけは、先に挙げた1実施施設で安定的に処理できる体制づくりが急務であったことだ。20年度から21年度にかけて行った家庭ごみの組成調査では、燃やすごみの約22%が紙類で、生ゴミなどの厨芥類の次に多い比率となった。

さらに2020年度から、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行が始まった。緊急事態宣言や外出自粛など、あらゆる啓発活動が停止し、多くの子供たちが環境について学ぶ機会を喪失した。本来ならば小学4年生の時に環境について学ぶ機会を得られたはずの当時の小学4年生から6年生に何かできることはないのか…。そこで他の自治体の事例などを研究し、思いついたのが雑紙救出大作戦だった。作戦の実行方法だが、対象者は小学4年生～6年生とし、雑紙救出大作戦に取り組むことでリサイクル意識の向上を図ること、また、伊勢原市で回収された雑紙を再生したトイレットペーパーを配布することにより、集めた雑紙はどうなるのか興味を持つきっかけづくりを行った。

夏休み前に紙類回収袋や市が作成した雑紙チラシ、古紙再生促進センターから提供を受けたマンガをもとに、子供たちが自分たちで雑紙を分別し、夏休み明けに小学校で回収もしくは集めた雑紙の重さや量を計量し、記録用紙に記入して提出。集めた雑紙を集積所に出す方法も選べるようにした。1年目の22年度から市内10校すべての学校に賛同いただき、結果は参加した小学4年生～6年生が計2,348名、総計2,451kgの雑紙を救出することができた。

加えて、対象ではなかった小学1年生～3年生も興味を持ち、自分たちもやりたいという多くの声を聞いた。学校の先生からも、次は低学年の参加を要望する声も出てきた。そこで23年度は、低学年も参加させたいとの一部学校からの要望により計3,848名が参加し、2,126kgの雑紙を救出することができた。そして、24年度はさらに低学年の参加者も増え、計4,203名が参加して2,229kg集めることができた。学童1人当たりの回収量は年々減少しているが、1年目に比べて家庭内における分別意識が高まっていることを感じた。

今年度は雑紙救出大作戦で集めた雑紙について、古紙再生促進センターと共同で組成分析調査を実施。雑紙救出大作戦に参加した小学校のうち、3校で集めた雑紙を対象に区分ごとに分類して重量を計測。その結果、お菓子の紙箱やティッシュ箱などの紙箱が41%、投げ込みチラシやプリント、包装紙などが37%となった。たぐさんの種類の紙類が含まれる雑紙という区分だが、約80%は紙箱や投げ込みチラシ、プリントなどで構成されていることが分かった。

また雑紙救出大作戦に参加した家庭に任意のアンケート調査を実施した。アンケートの設問では「分別の取組みは習慣化に役立つと思うか」との質問に対して、全体の75%が「役に立つ」と回答した。この結果からも、本取組みは子供たちの分別習慣の形成に寄与する活動であるとの確信を得た。

持続可能な社会づくりのための 環境教育の推進

關口寿也 / 全国小中学校環境教育研究会
会長、東京都多摩市立連光寺小学校校長

文科省の定める学習指導要領——これは概ね10年に一度改訂されるが、その中に、指導する内容や時数などが全部定められている。その内容と時数に準拠した検定教科書があり、それを市区町村の教育委員会ごとに選定



する。教科は、国語、算数（数学）、理科、社会、道徳など「科」がつくもので、これらには教科書がある。

次に領域——例えば学級会や総合的な学習の時間など教科書がないものをいう。行事は入学式や卒業式といったようなもの、運動会、学芸会、遠足なども含まれ、そのような活動を通して子供たちの育成を図っている。

だが世間で環境教育、環境教育と叫ばれ、環境がこれから中心になると言われているにもかかわらず学校に環境科はなく、領域の中でも環境の授業はない。では、どこにあるのかというと、教科・領域、つまりICT教育とか情報教育、プログラミング教育、キャリア教育といった中の一つに環境教育がある。環境教育が決して上位に来るわけではないところが非常に歯がゆい。その中で、教科領域のすべてに取り組むことは当然ながら不可能であり、学校の状況に応じた形になる。つまり、学校によって取組み方に軽重が出てくる。

環境問題は、現在はメインストリームに躍り出ているが、地球を揺るがす三つの環境課題がある。それは生物多様性、廃棄物に代表されるプラスチック問題、それから気候危機だ。実は、もともと気候危機は順位が低かったのだが、瞬く間に中心に躍り出てきてトップになった。しかも、生物多様性やプラ問題といった廃棄物問題も包括するような課題になってきた。

世界の気温をみると、2000年代を超えるにつれて急速に気温が上昇した。そして暑い暑いと言われた2023年、世界平均気温が1月～12月の間で特に後半がとてつもなく暑かった。その余波なのか、実は2024年は去年を上回っている。気象学者の間では、去年は上振れじゃないかと言われていたが、実際は去年を上回るほど暑く、9月以降も確実に去年を上回ったと推測される。

学校の中でも子供たちの生活に変化が起きている。教室のエアコンは常時稼働しているが、なかなか冷えない。校舎は基本的に断熱材が入っておらず、朝早くからスイッチを入れておかないと涼しくならない。あまりにも暑いので、屋外で体育の授業はできない。体育館もエアコ

ンが入ってないところではアウト。プールサイドに水筒を持ってくるのは当たり前。子供たちには、登下校時も熱中症予防グッズを持たせている。そんな世の中になってきている。

私たちも、そんな中で何かをやらないといけないとは思っている。私自身は、学校に招かれて先生たちに講演をする機会もある。そこで、世代別のグループに分かれて不安要素を書き出してもらおうと、どの世代でも確実に出てくる不安要素が二つある。一つは年金や貯金といった金融、もう一つは環境問題。では、環境問題をやろうとすると何を学習させればよいのかは分からない。温暖化はメインストリームであるけれども、いろいろな要因が多岐にわたっていて、先生たちもゴールが見えないと勉強させづらいからだ。

5～6年前、マイクロプラスチックを扱う授業の必要性を感じてプランを作った。プラスチックが多用される理由には、軽量（利用、運搬）であること、丈夫で長持ち、安価（製造が容易）——などがある。それらを皆で調べながら取りまとめた。

授業の想定ゴールとしては、不要なプラスチックは手に取らない、不要物はリサイクルする、安易にごみにしない、再利用するなど——何となくまとまって授業を終われた。子供も教員も何となくいい気分になり、少しだけ地球のために貢献できたと錯覚する。ところがスーパーやコンビニへ行くと、プラスチックに包まれたものしか売っていない。せっかく、ここまで合意したのに意味がないのだと分かる。あまりにもプラスチックが溢れていて、この状態を変えるにはどうすればよいのかという話になってくる。

しかもプラスチックのリサイクル割合をみると、マテリアルリサイクル 22%、ケミカルリサイクル 3%で、62%はサーマルリサイクル（リカバリー）、つまり燃やされている。そうすると私たちのやった授業は何だったのとなり、ジレンマが生じる。つまり、ここが消費者の立場からの教育の限界となる。

そこを乗り越えるにはどうすればよいか。生産者の立場での教育をしていく必要がある。もっと分かりやすく言うと、世の中を変えることができる政治家を育てる、世の中を変えること

ができる会社の社長など人材を育てることだ。今日の文脈の流れで言えば、動脈に従事する人を育てる教育をやっていく必要がある。そのようなレベルの時代に来ている。

紙リサイクルもよくよく考えると もとととの出発点はサステナブルだ。改めて振り返ってみると、紙リサイクルは模範になる代表例だ。だから、そこをもっと PR してもよいのではないか。これまでは環境教育を行っていても、時に絶望感、無力化を抱いていた。しかし今は紙リサイクルを通じて環境を学ばせることによって、持続可能な社会をつくりだす人材を育ていけると考えている。

持続可能な社会づくりを、教育界では「ESD」(Education for Sustainable Development)と表現している。2002 年から始めたので歴史は古いですが、最初のうち ESD という言葉はなかなか浸透しなかった。要点は「自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで新たな価値観や行動などの変容をもたらす、持続可能な社会を実現していく学習・教育活動である」こと。

ところが、2019 年に SDGs が出てきて瞬く間に浸透したが、SDGs を達成するためには ESD が必要という文脈が出来上がり、少しずつ ESD が認知され始めた。つまり、SDGs の No.4「質の高い教育をみんなに」を核とすることで、ESD に貢献できるという認識が生まれた。

これからの新しい時代を生きる子供たちのために、学校教育は何を準備しなければならないのか、思考力とか問題解決力、探求力というキーワードが必須だ。昭和世代が子供時代に受けてきた知識偏重教育、偏差値教育とは対局となるもの、すなわち資質・能力、態度や、それらの育成が問われている。

日本から学ぶ資源リサイクル： インドネシア人の留学生の視点

ファティマ・シャクラ・アズハリ / 京都大学
大学院 地球環境学舎環境教育論分野
修士課程 2 回生

本日はインドネシア出身の留学生として日本から学べる資源リサイクルについて、お話しさ

せていただく。そもそも私が日本へ留学するきっかけとなった理由として、インドネシアのごみ問題について少し話をしたい。

インドネシアは焼却炉が非常に少ないので、都市からの廃棄物は減量なしにそのまま埋立て地に捨てられている。ジャカルタのごみを旧都市であったバンタルグバンという埋立て地に埋めている様子を見ると、2022年時点ですでに40mの高さに達している。このほか、ごみ分別が習慣化できておらず、不法投棄などの問題が生じている。

このような問題を解決するうえでは技術開発なども必要だが、私はそれよりもごみを生み出している人間の環境配慮行動、意識向上について興味を抱いた。このようなテーマを海外で学ぶために複数の大学に応募し、2023年にごみ削減、環境教育の取組みを通じて出会った浅利美鈴教授のもとで、今は修士論文を進めている。

さて、古紙リサイクルや紙ごみの削減を促すために、行動面の課題がたくさんあると思うが、そのうちの二つを挙げてみる。

一つ目は、家庭における分別の問題。特に1人暮らしをしている忙しい若者や狭いアパートに住んでいる人はこのような課題を抱えており、一時的に保管できる場所がないと、特に紙ごみは散らばりやすいことから面倒になり、燃やすごみとして捨ててしまうという問題がある。

二つ目は、外出時に飲食容器を使う場合。外出する際にマイボトル、マイカップなどを持っていくというキャンペーンは始まっているのだが、残念ながらそれを不便だと感じる人も多くいる。

プラスチック問題を解決するための方向性の一つに紙類を使うという選択肢があるが、これも食べ物の油や飲み物で汚れてしまい、かえってリサイクルできない紙ごみが発生するのではないかと思う。

ここで、インドネシアのごみ事情について説明する。インドネシアでは、資源ごみの回収は国や自治体ではなく、地域のコミュニティによって行われている。その方法の一つ目は廃品回



収車による回収。街中に落ちているプラごみなどを回収する。二つ目は、ごみ銀行というコミュニティ回収制度。分別されたごみを提出することで金銭に代えて貯金し、それを引き出すことができる制度になる。驚くことに、実はこの制度が家庭から排出されるごみの分別回収に最も効果的な方法である。

しかしここでの問題は、廃品回収車が紙ごみよりもプラごみを回収する割合が高いこと。なぜならプラごみは耐候性が高く、空気に当たっても強い。一方、紙ごみはごみ銀行で回収できるにもかかわらず1～2%ほどの貢献割合にとどまる。これはあまりにも低く、家庭からの分別・回収率をもっと高める必要があると思われる。

一方、日本はポイ捨てや不法投棄が比較的少ない。また常に清掃が行われていることに加え、ごみ拾い活動があることによって、さらにポイ捨てが低くなる。

Tehan et al.の研究結果によると、街中にごみが落ちていない状況は、さらにポイ捨てを促さない。反対に、ポイ捨てされている状況だと、新たなポイ捨てを生んでしまうという。

さらに家庭からの効果的な資源ごみ回収増強策として、燃やすごみ袋の有料化がある。燃やすごみの排出有料化と、資源ごみの回収制度があることによって、できるだけ燃やすごみの量を削減したいという意識向上につながるのではないかと思った。インドネシアには、そのような制度はまだなく、ごみ出しの料金は世帯の種類ごとに予め定められている。

二つ目は世界銀行のデータからだが、日本では自治体による家庭ごみの回収制度がほぼ100%整備されており、廃棄物は概ね100%近く回収されている。一方、インドネシアでは60%しか回収されておらず、1億4,200万世帯の40%が回収サービスを受けていない。

これからのグローバルな挑戦についてだが、インドネシアを含め他の東南アジア諸国でも日本のような国内紙リサイクルシステムを整備し、古紙を回収して再生するような技術・能力の向上が求められる。そして資源リサイクルを通じて、地球規模での持続可能な社会をつくり、子供たちへの啓発もさらに活発化できたらと思っている。

委員会 トピックス

安全防災委員会

紙縁会と関東商組 安全防災委員会との 意見交換会



(報告者) 栗原紙材株式会社 上原 崇志

■開催趣旨

現在、関東商組安全防災委員では全組合員の無事故・無災害を目指し、安全DVDの作成、安全セミナーの実施、事故・災害の撲滅にむけた啓発物（ポスター）を作製する活動を行っています。今回の意見交換会は、全原連加盟各単組の組合員と安全に対する取組みや意見を、直接聴取・反映し、全組合員の無事故・無災害を達成する為に開催しました。

見を出し合い来年度の年間標語を決定しました。

年間標語

『昭和100年 終わりなき安全』

2025年が昭和100年の年にあたることから、過去から現在まで安全についての思いは変わらないという意味を込めました。

※ ポスターは2025年4月配布予定

■概要

日時：2024年11月18日(月) 14時30分～17時

場所：ホテルグランヴィア広島

出席者：紙縁会10名

関東商組11名

■内容

1. 2025年度の安全ポスター作製について

過去の年間ポスターを参考に中国地方らしさを出したデザイン、フレーズについてそれぞれ意



会議の様様



安全防災委員と紙縁会の皆様

2. 各社の安全への取り組みについて

- ・毎年年度初めに本社にて「安全管理計画書」を作成。計画書に基づき活動・教育の実施。
- ・安全会議の開催（年2回）外部講師による安全講習会の開催（過去に新明和、保険会社、地元警察による講習会を実施）
- ・入社時に危険個所の説明後、サインをもらい、関東商組作成の安全DVDを視聴してもらう。
※安全DVDは現在全原連HPより視聴可能となっております。是非ご活用ください。
詳しくは「全原連 安全防災」で検索
- ・地元警察が月1回発行している、交通事故加害者による手記「贖い（あがない）の日々」を配布している。
- ・事故報告書を全事業所で共有。事故の原因や分析を徹底する。
- ・リフト後方部の写真を毎日提出させる。（些細な傷も見逃さない意識付けの為）
- ・リスクアセスメントを各事業所で実施。

3. 最近の事故事例

- ・ベラー火災が発生。コンベア下の清掃を怠っていたことが原因。火災当時、コンベア下には1m以上、紙が溜まっていた。

事故状況としては、①ベラーから煙が出ているのを発見。②しばらく水をかけ続ける③煙が少なくなったので蓋を開けると空気が入り一気に火が回った。

- ・引取先で物損を報告せず帰社。該当ドライバー

を回収先へ一時出入り禁止とした。

- ・飛び込み客が構内指示を守らずに進入し、衝突事故を起こす。構内にカメラを設置した。

4. リチウムイオン電池による火災、水害対策、ヘルメット着用について

●リチウムイオン電池についての対策

- ・今のところ注意の段階で、具体的な対策はしていない。発見時は専用の入れ物に保管し適切に処分するようにする。
- ・入荷時にすべて分別、発見することは難しい。火災が起きても延焼しないやり方（雑品置場の独立、在庫を持たない）を考え運用している。（鉄取り扱いの企業様）
- ・組合作成のポスターを印刷して顧客に配布している。（ポスターに記載のQRコードを読み取るとダウンロードできる）

●水害対策

- ・キュービクルなどの電源設備置場のかさ上げを実施。

●ヘルメット着用について

- ・参加企業の9割は義務化。残り1割は、義務化しておらず、各所長の判断に任せているなど対応は様々であった。

過去、ヘルメット着用を義務付けした際、社員が退職した企業もあった。



翌日厳島神社にて安全祈願しました



報告者：株式会社 須賀 木ノ下 知宏

- 開催日：2024 年 10 月 28 日（月）
14 時 30 分～15 時 50 分
- 会 場：ANA クラウンプラザホテル松山
- 出席者：[関東／三紙会] 5 名、[中部／中部ファイバースクラブ] 9 名、
[近畿／紙朋会] 4 名、[中国／紙縁会] 10 名、[九州／紙藍会] 5 名、（開催地）[四国／紙志乃会] 18 名
- 計 51 名

1. 開会挨拶

開催地の紙志乃会 石川会長より挨拶。

2. 各地区情報交換

(1) 市況報告

各地区の国内仕入・販売価格および輸出価格の報告。

(近畿地区)

- ・雑誌の品質について、純粋な雑誌の発生が減少し、雑がみ類の比率も多くなっていることから、製紙会社からは雑誌の銘柄をランク分けする要望も出ている。

(2) 古紙原料減少についての対策・取り組みについて

(近畿地区)

- ・採算性を高める為に、コンビニなどの少量で採算が合わない回収を辞めている。また、物量に応じて回収の逆有償化も進めている。

(中国地区)

- ・ポイント回収 BOX の拠点を増やしており、ペットボトルも回収品目に加えている。
- ・古紙以外の副業として、サウナ事業に着手している。

(九州地区)

- ・リサイクル BOX に古着回収も設置して好調。古紙以外の展開に力を入れている。

(3) 労働災害についての報告

(中部地区)

- ・三重県の事故事例で、パッカー車でペットボトル回収作業中に巻き込まれて死亡する事故があった。
事故の原因として、ホッパー内への身体侵入、パッカーの連続回転、ドライバー 1 人作業などが考えられる。ドライバー不足の中、今後も回収業務の効率化と安全対策の両立が課題となってくる。



懇親会の模様

(4) 製紙会社の行政入札参入に対する考え

(中国地区)

- ・製紙会社が病院の入札に参入、従来は逆有償だった機密文書の回収を買取りで落札。価格破壊となり、他業者の落札が難しくなった。

(関東地区)

- ・製紙会社が積極的に「行政回収におけるミックス古紙回収」に対し営業をかけている。東京都渋谷区では、話が進んだものの従来の古紙問屋を経由してのリサイクルフローを守ることで落ち着いた。
- ・神奈川県座間市では、行政・製紙会社・ショッピングモールが連携して、ミックス古紙のリサイクルを進めている。

(5) その他

- ・関東／三紙会より、2014年3月～2024年

9月の新聞・チラシ重量調査結果について資料報告。

懇談会終了後、岡田武史氏（元サッカー日本代表監督、現FC今治／（株）今治 夢スポーツ会長）による講演が行われました。講演では、会社の組織運営や人材育成についての経験談を聞く事が出来て、今後の業界としても参考になる内容でありました。また、日本代表監督時代の話も興味深く、あっという間の講演時間でした。

講演終了後、懇親会が開催されました。紙志乃会 吉田氏の乾杯で懇親会がスタート。

宴席ということもあって盛り上がり、各地区メンバーが親交を深めることが出来ました。

最後に各地区代表の方々から挨拶があり、次回六地区懇談会開催地区である 三紙会 平松会長の中締めで懇親会はお開きとなりました。



[懇親会・中締め] 次回開催地 三紙会 平松会長

省エネペーラー誕生
SW770 HEシリーズ
 HIGH SPEED, HIGH PRESSURE
 AND ENERGY SAVING

契約電力DOWN!!
 消費電力
25%
 以上削減!!
 消費電力DOWN!!

昭 和
 株式会社 昭 和
 本社 〒134-0091 東京都江戸川区船場2丁目23番21号
<http://www.showa-press.co.jp> 電話 03-3689-0303

WorkVision
 Creating Value for The Future

お問い合わせ先
 ビジネスソリューション営業第一部
 営業担当：柿崎 真佳
 TEL: 03-4233-0945 FAX: 03-5463-1138
 *旧社名 東芝ソリューション販売株式会社
 2019年7月1日より社名変更となりました。

システムは「所有」から「利用」へ!

**リサイクルシステム
 クラウド版リリース**

シンプルで
即戦力!

セキュリティと
災害に強い!

サーバ購入
・管理不要!



茨城県支部

茨城県支部研修視察旅行

(報告者) (株)斎藤英次商店 菅谷 淳美

日 程 : 2024 年 9 月 7 日(土) ~ 9 日(月)

場 所 : 香川県 (小豆島)・徳島県

訪問先 : 1 日目 小豆島オリーブ園、二十四の瞳
映画村、マルキン醤油記念館

2 日目 栗林公園、屋島寺、観潮船わ
んだーなると、道の駅くるく
るなると、阿波おどり会館

3 日目 株式会社日誠産業、上勝町ゼ
ロ・ウェストセンター

参加者 : 斎藤元司 (株)斎藤英次商店
榊原勝男 (有)榊原商店
本沢節子 (有)榊原商店
高木昌夫 美濃紙業(株)
毛塚隆久 (株)育峯紙業
戸塚正義 (有)茨商
五木田健吾 丸和資源(株)
紺野琢生 丸和資源(株)
植田修正 (有)植田商店
近藤明 栗原紙材(株)
水越謙太郎 (株)水越
菅谷淳美 (株)斎藤英次商店

他 1 名 計 13 名

〈1日目・2日目〉

視察先の風土や歴史を学び、市況交換などを行いながら、支部会員の交流を深めた。

異業種見学先：マルキン醤油記念館

香川県小豆島で1907年に創業。小豆島では古来より塩づくりが盛んであったことに加え、海上交通の要衝として大豆や小麦が集まり易かった為、醤油造りが発展した。約400年の歴史があり、日本四大産地のひとつとして今も昔ながらの製法を受け継いでいる。

記念館は1987年、マルキン醤油の創業80周



小豆島 マルキン醤油



屋島寺山頂にて

年を記念して、大正時代に建てられた工場の一つを改装して建てられた。有形文化財に登録されている合掌造りの建物で、醤油造りの歴史と製造方法の紹介が行われている。

〈3日目〉

視察先：株式会社日誠産業

担当者：専務取締役 営業本部長 島大樹

常務取締役 技術本部長

兼新浜・橘工場統括 国安満

原材料 第1部 部付部長 上村大輔

仲介者：阪和興業(株) エネルギー第二部

紙料課

西村昌太郎

1970年に製紙原料売買を目的として創業する。1985年にラミネート古紙専用の再生パルプ製造プラントを開設し、高品質リサイクルパルプの製造販売を行う。

一般的な古紙パルプとは違い、脱墨設備が不要な紙パック（ラミネート古紙）を主原料としており、バージンパルプに匹敵するような高品質パルプを生産する。

〈工場概要〉

生産能力：80t/日（2,200t/月）

従業員：50名

敷地面積：11,200㎡

月間古紙使用料は、約 2,300 ～ 2,400t で、その内約 600 ～ 700t を飲料パックが占める。また、その内の約 100t、原料として学乳も使用している。

取り扱っている古紙は、回収された飲料パックをはじめ、紙コップやキッチンペーパー、ティッシュ、コーヒーフィルターなどの損紙、半導体の梱包に使用したキャリアテープなど、多種多様な古紙を原料としている。

受入れ古紙の拡充を目指しており、主要品目の飲料パックなど脱墨の必要がない商品を中心に、新たな取引を希望している。充填損紙の受入れ可否の質問についても、サンプルを提供すれば、検討して頂けると前向きなお話を頂きました。

シール台紙の扱いもあり、製品の色に関係なく使用できるが、処理をより容易に行えるよう

にするため、製造企業には白一色での生産を打診している。

色付きの古紙も使用しており、月初めからグレードの高い製品を仕込み、月末に向けて色付パルプの含有率が高くなるように品質を調整し、月単位で生産管理を行っている。

一方で、粘着物の付着や多重印刷古紙、中質紙、化繊の混入、シリコン塗布、蛍光染料が使用されたものなどについては、扱いが難しいとしている。

パルプをラミネートフィルムから離解し易くするため、原料を破砕機で手のひらサイズほどの大きさに破砕を行う。パルパーで薬品などを使用しパルプを離解し、形状分離や比重分離の工程を経て、細かいフィルムなどの異物を除塵する。その後、パルプマシンで脱水されたパルプをシート状に成形する。製紙原料として販売を行っている為、圧力による脱水のみで、含水率が約 55%の状態 で製品として出荷される。

歩留まりは約 86%で、分離されたフィルムは、関連会社で RPF 化し処理を行っている。将来的に、廃プラ原料としてマテリアルリサイクルを行うため、フィルムからパルプを離解するための研究開発を進めている。



搬入された牛乳パックプレス



分別されたフィルムプレス



停止中のパルパー内部



脱水・成形後のパルプシート



古紙ストックヤードにて



工場内にて集合写真

出荷されたりサイクルパルプは、洋紙や家庭紙・板紙などの製品に使用されている。その他にも、モールド製品や建築資材・特殊紙・和紙製品などと、幅広い製品への原料として利用されている。

今現在、関東方面からも 15t 車で月に約 30～40 台ほど、仕入れを行っている。新規の受入れにも余裕があるとの事で、物流などの課題は残るが、茨城県の古紙問屋にとって新たな販路獲得に期待を持てると感じました。

今後は、今回の視察に際して紹介を行っていた、阪和興業様を通して組合として商談を行っていく。

視察先：上勝町ゼロ・ウェイストセンター

担当者：合同会社パンゲア CEO 野々山聡

人口：1,358 人 718 世帯 (2024 年 9 月現在)

毎年約 40 人、人口が減少しているが、そのほとんどが自然減少で、ゼロウェイスト宣言に賛同する移住者もあり、人口減少の歯止めとなっている。

面積の 88% が森林で、主な産業は林業と農業。

昭和 61 年 (1986 年) に、料理などの飾りに使用する植物の葉などを販売する「彩 いろいろ」事業を開始し、新しい産業としてブランド

化している。

平成 15 年 (2003 年) に、ゼロウェイストを宣言し、2020 年までに廃棄物のリサイクル率 100% を目指し、第 2 のブランド事業を開始する。現在では、上勝町の取組が注目されており、全国から見学者が訪れている。

宣言以前は、町内のごみを一カ所に集め野焼きを行っていたが、分別などはほとんど行われず、管理を行う人にとっても劣悪な環境だったという。法改正などにより野焼きが出来なくなり、焼却施設を導入するも、ダイオキシンの基準を満たしていない事が判明し、わずか数年で運用が停止した。その後、焼却ごみの運搬を山口の業者にしたが、1 コンテナ 17 万円で、年間約 3 千万円の費用が掛かると判明し、ゼロウェイストを行う流れとなった。

2020 年に 81.1% のリサイクル率を達成するも、約 20% はゴミとして処分された。処分された物としては、大きく分けて 3 つに分類される。①現状リサイクルが出来ない素材 (ゴム製品類) ②複数の素材が使用され、分別の出来ない複合素材 ③衛生上問題ある物 (使用済のティッシュやオムツ、生理用品など) これらの物は、町民だけの努力では解決が難しく、製品企業の協力や技術革新、社会システムの変化が必要になる。当初の目標は達成出来なかったが、17 年間町民が取り組んで来た活動は日本国内に留まらず、世界的に注目を集める結果となった。

これまでの活動を後世にも繋げ、持続可能な社会の模範となるべく、新たなゼロウェイスト宣言を行い、「未来の子どもたちの暮らす環境を自分のこととして考え、行動できる人づくり」を 2030 年までの重点目標に掲げ、現在も勢力的に活動している。

上勝町 新ゼロウェイスト宣言

① ゼロウェイストで、私たちの暮らしを豊かにします

- ② 町でできるあらゆる実験やチャレンジを行い、ごみになるものをゼロにします
- ③ ゼロウェイストや環境問題について学べる仕組みをつくり、新しい時代のリーダーを輩出します

2020年4月に完成した「ゼロウェイストセンター」では、町民が自ら持ち込んだゴミが45種類に分別され、種類ごとに販売もしくは処分費を支払い、リサイクルが行われている。

センターでは町民が自ら、持ち込んだゴミを種類ごとに指定の置場に分別し、営業時間後に職員がチェックを兼ねて、業者引取り用のコンテナに移される。置場の表示には、処理業者やリサイクル後の製品、買取・処分価格なども記載されており、リサイクルに対する関心を高める工夫がされている。

免許や車を持たない世帯には2ヶ月に1度、職員が訪れ回収を行なっている。町民とのコミュニケーションを取る場にもなり、高齢者世帯の安否確認にもつながっているように感じた。

古紙だけでも11種の分別がされており、アルミ付パックなどは、今回視察した日誠産業(株)で処理が行われている。

センターで唯一受入れを行っていないのが生ごみで、それぞれの家庭で“たい肥化”して処理を行っている。

アパートなどの集合住宅では、電動の生ごみ処理機を使用しており、購入には町から補助が出る。

2023年時点で、有償販売が約170万円/年で処理費用が約600～700万円/年となり、コストの大幅な削減になっている。

上勝町で行われているシステムを、他の地域でも運用が可能なのかという質問に対しては、2,000～3,000人に対して1施設の単位であれば、可能であるとしている。

センターには、ゴミの分別スペースだけでなく、リユース品を無料で譲渡する「くるくるショップ」や企業との打合せや会見などを行う「オフィス・ラボ」、町民の憩いの場所となる「ラウンジ」などの施設が整備されている。後に建設された宿泊施設「ゼロウェイストアクションホテル Why」を含み、上空からセンターを見ると、「？」マークの形に見える。これは、「なぜ？」という疑問符を持って生産者と消費者が日々ご



施設案内図



段ボール置場



置場表示板



ゼロウェイストセンター選別場所



くるくるショップ店内



建物外観

みから学び合い、ごみのない社会を目指す」という、意味が込められている。建物の外壁には、解体された家屋で使われていた窓枠や建具が使われており、外観からも施設の意味を感じられる工夫がされている。

持続可能な社会実現のモデルとして、今後このような取り組みを行う自治体が増えていけば良いと感じました。

今回の視察で学んだことを今後の仕事や生活に活かし、より良い社会の実現に向けて自分自身も挑戦していきたいと感じました。また、今回一緒に視察を行った方々、視察先でお会いした方々との関係を深め、今後の古紙業界の発展に少しでも貢献できればと考えます。

神奈川県支部

神奈川県支部が5年ぶりに 秋季研修旅行開催 ～福島県いわき市の いわき大王製紙を見学～

日 程：令和6年10月25日(金)・26日(土)

参加者：参加社11社(12名)

(株)金澤紙業	金澤基彦
(株)タンザワ	中村幸司
(株)丸興佐野錦一商店	相田寛文
関東紙業(株)	水野俊幸
(株)宮崎	伊藤裕久
(株)村松紙業	村松 修
(株)ツルミ紙業	奥山一明
こづか(株)	小塚 渚
東京資源(株)	玉木基裕
むさし野紙業(株)	凉川政春
三弘紙業(株)	関 高男
三弘紙業(株)	大森博昭
	敬称略 順不同

訪問地：福島県いわき市

視察先：いわき大王製紙株式会社

〈1日目〉(報告者) 東京資源株式会社 玉木基裕

令和6年度、神奈川県支部研修旅行は10月25日・26日の2日間の行程で実施され、令和元年以来5年振りの開催となりました。参加者12名は品川駅2階みどりの窓口前に集合し、8時43分発JR特急ひたち5号に乗車して車窓から秋を感じながら目的地の福島県いわき市を目指しました。

電車の旅を楽しみ常磐線・泉駅に到着。駅では予想以上の豪華観光バスと優しそうなバスガイドさんの出迎えを受けました。県内最大規模の港である小名浜港に向かい海鮮食事処でいわき市の市魚である名物メヒカリの唐揚げを堪能しました。

昼食後、再度バスに乗車し、この度お世話になる視察先に向かいました。

視察場所は「古紙を最大限活用する」をコンセプトのもと誕生した「いわき大王製紙株式会社」です。今回、東京紙パルプ交易・両部部長様にアテンドしていただきました。

同社に到着すると代表取締役社長 奥山裕様、総務部・資源調達課長 金子宗充様、同・資源調達課 加澤慎太郎様の出迎えを受け、奥山社長よりご挨拶と会社説明を賜りました。



初日・泉駅にて・豪華観光バス到着！



小名浜名物・メヒカリの唐揚げ

同社は平成8年に設立、同年工場建設が開始されました。首都圏から180kmのいわき市南部に位置し、交通アクセスに優れ、古紙の集荷と製品輸送において原料調達と製品販売に適した理想的な立地となっています。周囲の豊かな自然と紙を再生するために必要な水を鮫川より取水し、恵まれた地で、環境を最優先にした工場運営をしております。使用後の水は、いわき市との公害防止協定に基づき、徹底した浄化処理を行い、鮫川に放流しています。

いわき大王製紙株式会社は、新聞用紙と段ボール原紙を生産し、年間60万トンの古紙を再生しています。難処理古紙（異物が多く従来は古紙として利用できなかった紙）の利用を増進しており、原料として古紙を高度利用することで循環型社会に貢献しています。

環境負荷の少ないバイオマスや廃棄物由来の

異物（廃プラスチック系のゴミ）もボイラーの燃料として使用し、焼却後の灰は路盤材等に再利用されています。

工場建設開始の翌年には、バックアップ用を含めた重油ボイラーを立ち上げ、段ボール原紙製造用の1号抄紙機、古紙100%使用を目的とした新聞用紙の2号抄紙機を順次稼働させ生産を開始しました。

現在では平成26年に中芯原紙用3号抄紙機が稼働し、グループ内で大王製紙(株)三島工場に次ぐ生産規模を誇る主力工場となっています。

奥山社長は、古紙を最大限活用する事と共に、環境に配慮した工場の運営を目指していることを強調され、平成13年には業界初となる3号バイオマス発電設備の導入に始まり、平成20年には二台目の4号バイオマスボイラーを稼働させ重油ボイラーを停止し、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルを前進加速させています。

また、令和5年には、5号リサイクルボイラーを稼働させ2030年度に向けた化石燃料を使用しない、且つCo2を排出しない製品づくりを目指しています。説明の最後には『造る側の責任』を果たしていくとのお言葉を発せられ、循環型社会への貢献に一層お話が説得力のあるものとなりました。

工場見学は、金子課長、加澤様のご説明を頂きながら古紙ストックヤードから見学を開始し、新聞古紙や段ボール・雑誌古紙をはじめ難処理



難処理古紙・一部使えない古紙もあり 工場内には多種多様な古紙が整理整頓されていました

古紙を積極活用している取り組みがヤードの古紙在庫からも見てとれました。

新聞用紙の製造工程は古紙から異物・インクを除去し古紙パルプを製造することから始まり、古紙パルプは抄紙機に送られ、巻取状の紙に仕上げ新聞用紙が出来上がります。完成した新聞用紙は、主に東日本の新聞社に出荷されます。

この度の訪問で、同社の製品に対する品質はグループで培った経験やノウハウをもとに、古紙を利用しながらも最大限環境に配慮した取り組みを重ねることで、奥山社長の『造る側の責任』を果たして行くという、お言葉通りの製紙工場であることを改めて認識させられた見学となりました。

最後に、質疑応答ではこれから益々減っていく古紙に対して、難処理古紙をテスト品として受け入れてどうにか生かせないかチャレンジされている方針が強く印象に残りました。

今回の同社訪問により、古紙を原料として、また製造工程における廃棄物を余すことなく有効活用している姿を拝見し、私達古紙を扱う者として頼もしくも嬉しくも思えた機会となり、心より感謝申し上げます。

研修後は、バスで移動して、16時頃に宿泊先のいわき湯本温泉ホテルハワイアンズに到着しました。今回宿泊しましたホテルハワイアンズは、4つの宿泊施設（ホテルハワイアンズ・モノリスタワー・ウイルポート・マウナヴレッジ）と魅力いっぱいの6つのテーマパークからなる一大リゾート施設です。温泉旅館でありながら浴衣ではなく、アロハシャツを着てリラックスした雰囲気、17時30分から懇親会を行いました。アロハシャツを着たおかげもあり、終始リラックスして食事と会話を楽しめました。

二次会ではカラオケを行い、思い思いの曲を熱唱し大変盛り上がりしました。一部の方は館内のハワイアンショーに行きました。屈強な男性が行うファイヤーナイフダンスでは火が付いたファイヤーナイフを体の回りでバトンのように

自由自在に動かすとても迫力があるショーでした。ハワイの伝統であるフラも本格的なダンスと音楽で楽しむことができました。日本の中のハワイを束の間ですが、楽しみました。

〈2日目〉(報告者) 三弘紙業株式会社 大森博昭

8時30分にホテルハワイアンズを出発し、9時頃に「いわき震災伝承みらい館」に到着しました。いわき震災伝承みらい館は、東日本大震災での津波被災地に立地し、パネルや映像、被災した学校の備品など多様な展示を通して、いわき市における震災の記憶や教訓を伝えています。

大震災を体験した『震災語り部』がバスに同乗し移動しながら、記憶や教訓、被災地の復旧・復興状況などのお話を伺いました。深刻な話ですが、時には冗談を交え聞く人を飽きさせず



震災語り部 時にユーモアを交え、聞く者を飽きさせない話は一聴の価値あり



いわき震災伝承みらい館 震災に備える大切さ、津波避難時の対応などを学ぶ

に、引き込まれる話で震災への心構えと常日頃の備えが大切なことを感じさせました。

バスで移動して、11 時頃に「いわきワイナリーガーデンテラス&ショップ」に到着。常時 25 種類のワインを取り揃えているお店です。自然豊かな景観を楽しみながらゆったりとした時間の中で、チーズと一緒に美味しいワインを試飲して買物を楽しみました。

12 時頃に、昼食場所の「いわき・ら・ら・ミュウ」に到着。

バーベキューで炭火焼きの新鮮魚介とお肉のセットをいただき舌鼓を打ちました。昼食後は新鮮な海産物の買い物を楽しみました。

バスで移動して、14 時頃に泉駅に到着しました。

14 時 29 分 泉駅発 JR 特急ひたち 18 号にて品川駅へ向かいました。

16 時 51 分に品川駅着 解散しました。



隣接する 3ヶ所の農園から 25 種類のワインを楽しめます



(HP から拝借しました) バーベキューで炭火焼きの新鮮魚介とお肉のセットをいただき舌鼓を打ちました。昼食後は新鮮な海産物の買い物を楽しみました。



備長炭で焼いて食べる新鮮魚貝は最高に美味しいです！！



2日目昼食・いわき・ら・ら・ミュウ・海鮮バーベキュー

金澤支部長初め研修旅行に関わった全ての方々に感謝しております。

1泊2日という短い旅行でしたが、組合員の皆様と交流を深め、時間を共有し貴重な体験が出来て、とても有意義な研修旅行だったと思います。



ひたち 11 号にて帰路につく

東京都西支部

支部研修旅行

(報告者) 株式会社こんの 高橋 雅之

視 察 先：福井県内各所

視察日時：2024 年 10 月 2 日～4 日

10 月に入ってもまだ残暑が厳しい中、総勢 10 名のメンバーで北陸は福井県へ出発しました。今回の視察は「歴史に学ぶ」をテーマに越前和紙の紙漉き体験や紙祖神大瀧神社・岡太神社参拝などが含まれておりました。

〈1日目〉10 月 2 日 (水)

早朝 7 時のフライトで羽田空港から小松空港に向かい、晴天にも恵まれ飛行中は富士山も見る事が出来ました。小松空港からは陸路で最初の目的地に向かいました。

『永平寺』

曹洞宗の大本山として、荘厳で静寂な雰囲気漂っています。山深い場所に位置し、季節ごとの自然が美しく、特に紅葉の季節には鮮やかな紅葉が境内を彩ります。入るとすぐに感じるのは、僧侶たちが長い年月をかけて育んできた規律と厳粛さです。

広大な境内を歩くと、どの建物にも歴史と伝統が息づいていることが伝わってきます。拝観



永平寺にて

できる「仏殿」や「法堂」では、心を静める清らかな空気に包まれました。日常から離れ、心が浄化されるような体験ができ、訪れる価値がある場所だと感じました。

特に印象的だったのは僧侶たちの日常生活の一端を垣間見ることができる点です。厳しい修行を行いながら、日々の規律を守る姿に深い敬意を抱きました。

『越前大野城』※天空の城

雲が厚く、残念ながら雲の上のお城は見る事が出来ませんでした。3D ゴーグルを着用し、行ったつもりで楽しみました。

『一乗谷朝倉氏遺跡博物館』

一乗谷朝倉家跡地は、中世の戦国大名朝倉氏が拠点とした城下町の跡地です。広大な敷地にわたる遺跡が整備されており、当時の生活や町並みを想像しながら歩くことができました。発掘された庭園や屋敷跡を巡ると、戦国時代の文化や日常生活の一端に触れることができます。特に印象的だったのは、復元された町並みです。屋敷の間取りや石畳の道が再現されており、まるでタイムスリップしたかのように当時の生活を感じることができました。また、朝倉家の繁栄とその後の滅亡に思いを馳せながら歴史の重みを感じました。

〈2日目〉10 月 3 日 (木)

朝から雨となり観光組・ゴルフ組共に予定していた、コース（行程）を回れず予定変更を強いられる。北陸は古くから、「弁当忘れても傘忘れるな」と格言があり、天気が変わりやすく雨の日が多いそうです。

観光組は今話題の『県立恐竜博物館』へ行きました。日本最大級の恐竜博物館で、迫力ある実物大の恐竜骨格標本や動く恐竜の模型が印象的です。展示内容も充実しており、恐竜の進化や生態について学べるだけでなく、地質や古生物の歴史にも触れられます。

『丸岡城』

丸岡城は、日本最古の現存する天守閣を持ち、

重厚で趣のある佇まいが魅力です。木造の古い階段を登り、天守最上階から望む景色は絶景で、周囲の自然と調和した美しい風景が楽しめます。歴史的な風格と木造建築の温かみを感じさせ、戦国時代の面影を色濃く残しています。

『東尋坊』

ここからゴルフ組と合流しいざ東尋坊に行こうとしましたが、雨・風が酷く、展望台も閉鎖し、少しでも感じたい我々は傘が吹き飛ぶ中、東尋坊の手前まで傘を抑えながら進み、後ろ髪を引かれる想いで後にしました。ゴルフ組も全ラウンド消化する事が出来ず、ハーフにて打ち上げました。

〈3日目〉10月4日（金）

『めがねミュージアム』

伝統的な眼鏡産業の歴史や技術を学べる施設です。実際に自分で眼鏡作りを体験でき、オリジナル眼鏡を持ち帰ることもできます。めがね一つ一つに掛ける、職人さんの想いや並々ならぬ努力を垣間見える事が出来ました。

『越前和紙の里』

福井県は和紙の産地としても知られており、今回訪れた紙漉き工房では、その伝統技術を実際に体験することができました。紙漉きの工程は一見シンプルに見えますが、細かい作業や熟練の技術が求められることに驚きました。



講師の方に教えられながらの紙漉き体験

体験では、まず紙を漉くための材料を準備し、木枠を使って紙を成形します。手作業で水を通して繊維を均等に広げる作業は繊細さが必要で、少しでも力加減を間違えると紙が不均一になってしまいます。職人さんの手ほどきを受けながら慎重に作業を進め、最終的には自分だけのオリジナル御朱印帳を完成させることができました。

手作業ならではの温かみや風合いがあり、市販品とは異なる特別な魅力を感じました。日本の伝統文化に触れ、ものづくりの奥深さを体感できる素晴らしい体験でした。

『紙祖神大瀧神社・岡太神社』

大瀧神社・岡太神社は、約1500年前に創建された福井県越前市にある神社で、日本の紙作りの祖・川上御前を祀っています。奈良時代に川上御前がこの地に紙漉き技術を伝えたことから、日本最古の和紙産地として知られるようになりました。越前和紙職人たちは、この神社で技術と繁栄を祈り、紙の聖地として大切にしてきました。

我々一同も紙を扱う仕事に就いており、神様に今後も引き続き紙に携わる事が出来る様お願いを致しました。

【報告者所感】

三日間を通して決して天候には恵まれませんでした。それも含め北陸地方特有の思い出が出来ました。また、懇親会では各が抱える課題を真剣に考える機会もあり、今後の古紙業界に於いての各社の考え方や、手法を共有する事も出来ました。

幹事を務めて頂いた、井出紙業の井出さんには改めてこの場を借りて感謝申し上げます。来年もまた良い研修が出来る様に日々の安全を祈願し報告とさせていただきます。

埼玉県支部

埼玉県支部研修旅行

(報告者) むさし野紙業株式会社 金子 真人

埼玉県支部研修旅行は10月11日(金)～12日(土)愛媛県にて実施されました。

今回埼玉県支部では趣向を凝らし、異業種に学ぶ場を設定しました。

研修旅行のスケジュールは、初日みかん鯛の養殖を見学する研修、二日目は観光組7名・ゴルフ組7名とバランス良く分かれた親睦会も充実した一泊二日でした。

研修旅行の集合場所である羽田空港へ向かうための早朝電車内にて、最近では珍しい光景を目にしました。60代後半と思われる女性が縦折にした新聞を読んでいたのです。

スマホで新聞を読む姿が当たり前の現代にもかかわらず、新聞を隅から隅まで読むよう集中していました。新聞古紙の発生量が年々減っている古紙業界としては、何とも微笑ましい姿です。新聞紙を読む文化が少しでも引き継がれることを祈念して止みません。

「オレンジ色の憎い奴!! 夕刊フジ」の廃刊も昭和のオヤジにとっては寂しい限りです。

〔参加者 14 名〕

(株)ブシュー 近藤 豊、永田紙業(株) 永田 耕太郎・松葉 利男、新井紙材(株) 高嶺 直樹、(株)WELL 金久保 裕正、(株)大久保 福浦 秀樹、(株)國光 立石 祐二、三弘紙業(株) 中島 純雄、(株)須賀 安達 浩明、(株)富澤 富澤 進一・太田 吉計、美濃紙業(株) 近藤 英彰、むさし野紙業(株) 金子 真人、(株)山田洋治商店 芝田 公良

【研修】 有限会社中田水産 (みかん鯛養殖場)

代表取締役 中田 力夫様

他 スタッフの皆様



有限会社中田水産様にて集合写真

1. 主要養殖魚類

みかん鯛・みかん鰯・みかんサーモン・いちご鯛・いちごみかん鯛・チョコ鰯。

年間 200,000 匹を育て、国内・海外（アメリカ・カナダ・韓国・台湾・香港）へ販売。

2. 企業理念

果物を餌に混ぜることによって、魚の臭みを取り、旨味と食感を充実させます。

お客様に最善の魚を提供する過程に情熱と労力を惜しみません。

最終的に、子供・魚嫌いな人にも食べられるレベルに魚を育てます。

3. 餌の製造

製造工場の3階から2階へ移動し、ブレンドして1階で成型します。

〈3階〉通常の魚粉



ベースになる魚粉がフレコン内に

〈2 階〉 生餌 (いわし・みかん・みかんオイル)



魚粉にイワシとみかんをブレンド

〈1 階〉 餌の成型



みかん鯛用の餌が完成 さて匂いはいかが？

4. 餌やり

養殖場で実際に餌やりを体験しました。スタッフの皆様が安全・丁寧にご指導して下さいましたので、魚が餌に勢いよく飛び付く様を見ることが出来ました。



さあ、鯛に餌をあげましょう !!

【親睦会】観光組とゴルフ組

1. 観光組

(1) たたらしまなみ公園

海が見える著名な道の駅。二ヶ所に分かれて

お土産を販売しているので見応えあります。名産である愛媛みかんは時期が早く、少々酸っぱめです。



「しまなみ」の文字の中に 7 名集合

(2) 村上海賊ミュージアム

① 海賊のイメージ

村上海賊は愛媛県越智郡宮窪町に居た日本で一番大きな海賊です。

海賊と言えば海上の強盗がイメージでしょうが、村上海賊の場合はむしろ正義の助け舟と言えます。実に海の安全を守る仕事をしていたのでした。

② 警護の仕事

毛利 輝元が大阪に食糧を運ぶ時、村上海賊に警護を依頼しました。

織田信長の水軍が行く手を阻み戦になりましたが、お役目を果たしました。

③ 3 種類の船

- ・ 安宅船；一番大きい船。大將が乗船。
- ・ 関 船；細長い船。海賊が多く乗船。
- ・ 小早船；一番小さな船。小回りとスピード。



海賊の鎧兜と刀・槍は戦いの必需品

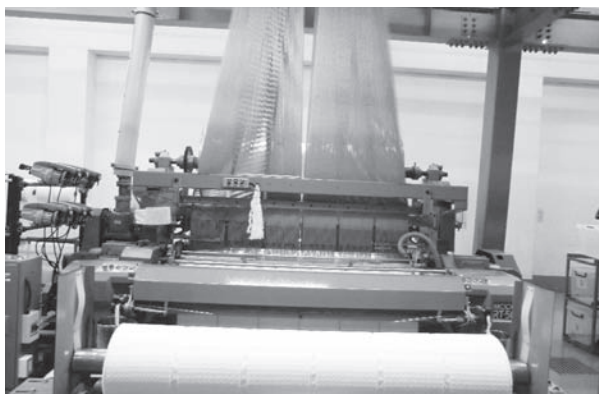


地元特産の大島石で作られた「村上海賊の娘」石碑

(3) タオル美術館

① タオル製造

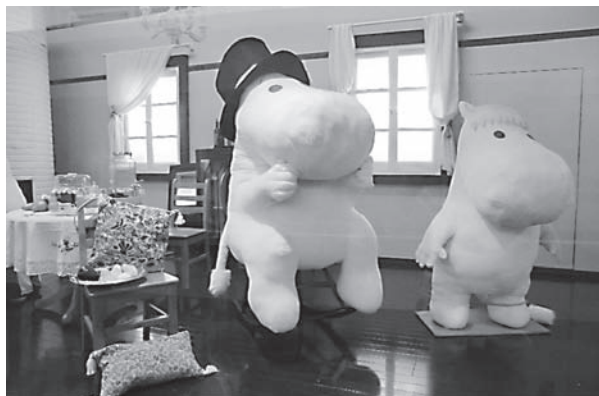
美術館とは言え、まずタオルを製造する工程が紹介されます。タオルが機械によって製造されるところを見ると、製紙メーカーで紙を製造している場面が頭に浮かびます。



巨大な機織り機のようなマシン

② 圧巻の装飾

美しい広大な美術館に居る気分です。単純なタオルだけでなく、タオルを使用し絵画のような展示が広大に続きます。アニメの人気キ



ねえ ムーミン ♪♪ これもタオルから製作



タオルで覆われたメルヘンのお部屋 ☆☆

キャラクターが鮮やかに描かれ、子供連れの家族は歓喜の笑顔で大満足の様子です。さて、愛媛県松山市と言えば「松山城」の見学が真っ先に推奨されるようですが私個人的には「タオル美術館」が遥かに上回る思いです。



男7名 日常と別世界のタオル美術館に満足

(4) 道後温泉

① 足湯

せっかくの温泉場なので、時間の許す限りお湯に浸かりたいと期待しておりましたが、生憎の行列でして、残念ながら通り過ぎるしか



足が温泉に浸かるだけでも何だか「ホッとする」気分

ありません。

駅前から少々歩きますが、足湯を見つけいかなものかと向かいました。

すると空いていてあまり待つことなく、足湯に浸かることができました。

足だけの温泉にはなりますが、道後温泉に入れたと観光組は自己満足の世界です。

道後温泉は滑らかで澄み切った湯であると足で感じました。

② からくり時計

道後温泉駅前に「からくり時計」があり、これが観光の締め括りになりました。私の地元である川越にも「からくり時計」がありますが、道後温泉時計の方がスケール大きいです。通常1時間毎に披露されるからくり時計ですが週末は30分毎に見られるよう工夫されております。



見応えのある「からくり時計」

2. ゴルフ組

愛媛県を代表する名門コースであるエリエールゴルフクラブでラウンド。海が見える絶景とトーナメント向けに整備されたコースで満足なプレー。



女子プロゴルフトーナメント前の優れた環境でナイスショット!!

【愛媛県の味覚】

(1) みかん

「愛媛みかんじゃけん、ええぞなもし」のコマ

ーシャルから40年を経てますがポンジューズ、さらに蛇口を捻るとオレンジジュースが出るのは特徴的です。

(2) 鯛めし

ご飯と一緒に鯛を炊き込む「松山風」と刺身を載せ出汁を掛ける「宇和島風」の二種類あります。どちらも美味しいですが、「宇和島風」は新鮮に感じられます。



宇和島鯛めしのお店に心浮き浮き♡♡



これから愛媛県の味覚をいただきます!!

【レポーター所感】

昨年の一泊三日研修と比較すると一泊二日のタイトなスケジュールではありますが、鯛の養殖場の見学という新機軸の構想が、まさに目から鱗が落ちる貴重な体験になり来年以降の研修旅行の検討材料にもなりました。一番印象に残ったことは、鯛の餌にみかん・いちごを混ぜることで経費が掛かるわけですが、採算度外視で消費者に良い品を提供する意識の高さです。臭みを取り、癖のない、美味しい鯛を食べさせたい。この精神は、古紙をしっかりと選別し、きれいな古紙ボールを製紙メーカーへ納品する古紙リサイクル業の務めに重なる思いです。予想以上に奥が深い現場を考察出来て文字通り「めで鯛」研修旅行になったことは、参加者全員が感じたことでしょう!!

北越パレット株式会社

代表取締役

北地 晃



関東商組の皆さま、いつも大変お世話になっております。

この度、2024年6月20日付で代表取締役に就任いたしました北地 晃です。皆さまには日頃より格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は1997年に旧紀州製紙に入社し、同社子会社において主に物流用パレットや物流機器の営業に携わってまいりました。現在、親会社の経営統合により、当社は北越パレット株式会社となっております。これまで当社は、製紙会社である親会社向けに製紙用パレットを供給、製紙用チップの供給を行うとともに、木製パレットや物流機器を外販する事業も展開してきました。木製パレットは、現在も顧客の要望に合わせた規格や仕様でオーダーメイドする業界です。このため、パレットを中心とした物流機器に関する相談をいただく事が多く、私はそれらのご要望に応えていく営業の仕事にやりがいを感じていました。特に大阪での営業経験は21年と長く、顧客との関係も深まり、営業担当として共に朝まで飲み明かすこともあり、懐かしくもあ

新社長 紹介



りがたい思い出となっております。

当社は、2022年度より北越コーポレーションの他グループ会社から事業分割承継により古紙事業を任せていただくこととなりました。今般の代表就任に伴い古紙事業にも携わるようになり、学びを深める中でこの事業が持つ社会的意義や奥深さを実感し始めています。国策として推進されているサーキュラーエコノミー（循環型経済）において、古紙事業は時代に先駆けてその循環システムを確立し、社会貢献度の高い分野として大きな役割を果たしています。しかしながら、IT化の進展に伴うペーパーレス化や、人材不足や物流の2024年問題の課題など、事業環境は厳しさを増しています。それでも、包装材や容器への紙化が進む現状を見ると、循環型社会への貢献はますます重要になっていくと確信しております。

微力ではありますが、業界発展のため、そして社会への貢献を目指して力を尽くす所存です。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

二十一世紀の環境を守る。

信頼のパートナー。

古紙用ベラー番線。



キャリヤー巻紙



コイル巻紙

豊かな環境を
ワンダフルに21世紀



- ・最良の品質
- ・豊富な在庫
- ・万全なサービス

株式会社 櫻井

<http://www.kk-sakurai.com/>

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里4-13-12

TEL 03-3803-3511

FAX 03-3807-8153

巻紙幅 mm	コイル 1巻	コイル 1巻	1/2T- 1巻	1/2T- 1巻
φ12 25mm	50	100	500	1,000
φ10 32mm	50	100	500	1,000
φ8 40mm	50	100	500	1,000

ベラー番線

最良の品質・防錆OK

ートラブル、ロスが少ない

50K・100K・500K・1000K

坂野興業株式会社

東京本社 TEL03-3718-7311 FAX03-3724-8170

浦安営業所 TEL0473-54-6531 FAX0473-51-5201

静岡営業所 TEL054-624-1101 FAX054-624-6704

株式会社 工藤商店
代表取締役社長
つぐと
工藤 嗣人



関東製紙原料直納商工組合の皆様、いつも大変お世話になっております。株式会社 工藤商店の工藤嗣人（つぐと）です。2024年7月1日付で、(株)工藤商店とグループ会社の(株)工藤出版サービス、(株)工（たくみ）企画、(株)工（たくみ）パブリックの代表取締役社長に就任しました。

私は2000年3月1日に(株)工藤商店へ入社し、高島平営業所にてまずは紐切りを学び、大型免許を取得、三紙会にも若輩ながら入会させていただきました。

弊社は出版関連として、各取次店様に4トン車～大型車で毎日のように引取りを行い、そしてまた紐切りの日々でした。それから構内作業が増え、プレス機の扱いからクランプリフトなどの操作が増え、4年間の古紙修行となりました。ここから(株)工藤出版サービスへ出向扱いとなり、浦和松本営業所にて出版物の納品、返品作業の実務、お得意様回りの経験。戸田笹目営業所では返品作業と棚卸、断裁作業の実務と忙

新社長 紹介



しく体験をしました。

それぞれ1年間が経過した際に、次は戸田美女木営業所への異動を命じられておりましたが、前日の夜「上戸田営業所」への異動になりました。当初は、新しい営業所でしたので右も左も解らぬまま、がむしゃらに恥を忍んでお得意様、取次店様に愚問をしました。同僚から聞く事も大事ですが、自ら進んで考えて、行動する事の重要性を学んだ数年間でした。上戸田営業所の責任者を経て、総務と営業、管理を任せていただき今に至ります。

現在は、東京都製紙原料協同組合の理事、出版リサイクルセンターの理事、全国製紙原料商工組合連合会の理事を務めさせていただいております。

入社して25年、まだまだ勉強不足の若輩者ではございますが、組合のためにも尽力して参ります。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。

新聞雑誌選別、さらに革新。

紐切装置付選別コンベヤーライン

ヤードスペースに合わせ、自由にレイアウト。

営業品目

- 各種破袋装置
- 古紙梱包機投入用コンベヤー
- 空カン・空ビン選別コンベヤーライン
- 各種シュレッダー投入用コンベヤー
- 再生資源産業用各種コンベヤー
- 各種省力機械設計・制作



株式会社 拓己技研

〒444-0937 愛知県岡崎市島坂町字川田5番地3
TEL (0564) 64-3692 FAX (0564) 64-3693

デジタルロードセル式トラックスケール

高精度・低価格・短納期 5t～100t 各種計量管理システム

鎌長製衡株式会社

<https://www.kamacho.co.jp>

本社・工場	TEL(087)845-1111(代)	FAX(087)845-7442
東京支店	TEL(03)3243-2080(代)	FAX(03)3243-2081
大阪支店	TEL(06)6339-0131(代)	FAX(06)6339-0139
名古屋支店	TEL(052)586-1451(代)	FAX(052)586-1467
九州支店	TEL(092)281-5328(代)	FAX(092)281-3822
中四国支店	TEL(087)845-1140(代)	FAX(087)845-7442

三紙会

TWEET

挑 戦



株式会社 斎藤英次商店

斎藤 元司

剣道八段審査をご存知でしょうか？
司法試験より難しいといわれ、合格率は
1%未満、年に2回開催される現代剣道
での最高段位の審査であります。

青春＝剣道だった私にとって、この超
難関審査に挑戦する仲間が多く、知人が
合格するたびに大変うれしく、同時に誇
らしくもあります。

しかし、中には10年以上も真面目に受
け続ける同窓生もいて、自分の剣道修行
としてあきらめず挑み続ける姿勢には本
当に頭が下がります。

コロナ禍も明け、50歳を過ぎると頻繁
に酒を酌み交わす機会が増えその席で『何
で剣道やらない？もったいない。またや
ろうよ』と昔やられた仕返しをする気な
のか？誘いが多い…。

そのうち内緒で始めて偉そうな同級生
を昔のように…。

この『挑戦』は想像するだけでも楽し
い。

令和6年度 東京都中小企業団体中央会表彰式

令和6年10月17日（木曜日）銀座ブロッサムにて東京都中小企業団体中央会会長表彰受
賞者104名の表彰式が開催されました。関東商組からは組合功労者として、中田章理事、栗
原正光理事が東京都中小企業団体中央会会長から表彰状が授与されました。

〈受賞者〉

東京都中小企業団体中央会会長表彰

《組合功労者》

中田 章 理事

栗原 正光 理事



表彰状



謹 賀 新 年

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

令和7年1月

(アイウエオ順)

新井紙材 株式会社 代表取締役 新 井 遼 一 東京都港区麻布十番2-7-1 TEL 03-3408-5862	王子斎藤紙業 株式会社 代表取締役社長 野 田 豊 治 東京都新宿区新宿1-34-8 TEL 03-3226-6611(代)	株式会社 木場リサイクル 代表取締役 新 井 英 希 東京都江東区塩浜2-14-2 TEL 03-5665-8088
株式会社 新井商店 代表取締役会長 新 井 勝 夫 代表取締役社長 新 井 重 樹 東京都台東区根岸5-14-13 TEL 03-3873-9111	株式会社 大久保 代表取締役会長 大 久 保 信 隆 代表取締役社長 大 久 保 薫 東京都荒川区東日暮里1-40-5 TEL 03-3891-1188(代)	株式会社 共益商会 代表取締役社長 赤 染 マ リ リ ン 東京都品川区南大井6-8-11 TEL 03-3763-9431
株式会社 育峯紙業 代表取締役社長 毛 塚 孝 男 茨城県古河市小堤315-14 TEL 0280-98-2632 FAX 0280-98-2635	大村紙業 株式会社 代表取締役社長 大 村 直 紀 埼玉県春日部市新宿新田14 TEL 048-718-0202	株式会社 工藤商店 代表取締役社長 工 藤 嗣 人 東京都板橋区前野町4-40-18 TEL 03-3965-5101
市川紙原 株式会社 代表取締役社長 栗 原 正 光 千葉県市川市平田1-20-11 TEL 047-322-3301	株式会社 海 原 代表取締役社長 海 原 健 二 群馬県館林市新宿1-9-34 TEL 0276-73-0047	栗原紙材 株式会社 代表取締役 栗 原 護 東京都荒川区東日暮里1-27-9 TEL 03-3806-1751
株式会社 市川商店 代表取締役 市 川 哲 也 東京都練馬区早宮3-12-18 TEL 03-3992-6136 FAX 03-3992-6137	株式会社 金澤紙業 代表取締役社長 金 澤 基 彦 神奈川県藤沢市白旗4-2810 TEL 0466-81-0865	株式会社 グリーン 代表取締役 斎 藤 浩 二 千葉県松戸市紙敷879 TEL 047-391-1588
株式会社 今 井 代表取締役社長 今 井 利 明 埼玉県さいたま市浦和区 針ヶ谷1-1-14 TEL 048-831-5468	株式会社 金子商事 代表取締役 金 子 孝 埼玉県所沢市南永井767-5 TEL 04-2944-4097	株式会社 久米川紙業 取締役会長 吉 浦 高 志 代表取締役 吉 浦 亜 矢 子 狭山営業所：埼玉県狭山市上赤坂606 TEL 042-391-4113
ウブカタ資源 株式会社 代表取締役 金 子 真 澄 群馬県沼田市屋形原町2113 TEL 0278-22-5555	株式会社 木 下 代表取締役社長 木 下 一 善 神奈川県川崎市幸区戸手4-12-18 TEL 044-544-5611	株式会社 小池商店 代表取締役 小 池 茂 男 東京都新宿区新宿1-20-2 TEL 03-3354-9321(代)



謹 賀 新 年

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

令和7年1月

(アイウエオ順)

株式会社 國 光 代表取締役社長 朝 倉 行 彦 東京都台東区東上野5-2-5 下谷ビル2階 TEL 03-6636-8525	三弘紙業 株式会社 代表取締役社長 上 田 晴 健 東京都文京区本郷1-30-17 TEL 03-3816-1171(代)	株式会社 中 田 代表取締役社長 中 田 敏 夫 東京都渋谷区恵比寿西2-6-6 TEL 03-3461-5910
株式会社 近藤商店 代表取締役社長 近 藤 國 宏 東京都台東区元浅草4-1-3 TEL 03-3843-3866 FAX 03-3843-3867	株式会社 下田商店 代表取締役会長 土 方 十 四 江 代表取締役社長 土 方 道 明 東京都日野市万願寺2-35-6 TEL 042-583-0753	永田紙業 株式会社 代表取締役会長 永 田 博 太 郎 代表取締役社長 永 田 耕 太 郎 埼玉県深谷市長在家198 TEL 048-583-2141
株式会社 斎藤英次商店 代表取締役 斎 藤 大 介 千葉県柏市柏6-1-1 TEL 04-7186-6701	株式会社 須 賀 代表取締役 須 賀 清 文 東京都荒川区東日暮里2-28-11 TEL 03-3891-6224	株式会社 ナコジ 代表取締役 大 本 知 昭 東京都千代田区神田錦町3-13-7 TEL 03-5280-3710
株式会社 斉藤久七商店 代表取締役 斉 藤 岳 二 東京都荒川区東日暮里4-14-2 TEL 03-3806-2897	株式会社 坪野谷紙業 代表取締役 坪 野 谷 悟 輝 栃木県下野市柴1-4 TEL 0285-44-5005	有限会社 根本商店 代表取締役 根 本 祐 一 日立市平和町1-4-11 TEL 0294-21-2068
株式会社 齋藤商店 代表取締役社長 齋 藤 米 藏 東京都千代田区神田神保町1-46 TEL 03-3293-7701(代)	東京紙業 株式会社 代表取締役 赤 澤 満 東京都中央区八丁堀1-8-6 TEL 03-5540-6141	株式会社 平松商店 代表取締役 平 松 邦 明 東京都渋谷区幡ヶ谷2-42-5 TEL 03-3378-5631
有限会社 斉藤宏商店 代表取締役 齋 藤 久 雄 群馬県高崎市柴崎町1175 TEL 027-352-6633	株式会社 富 澤 代表取締役社長 富 澤 進 一 埼玉県川口市元郷3-21-31 TEL 048-227-3098 FAX 048-226-2044	株式会社 藤川紙業 代表取締役 藤 川 達 郎 東京都荒川区西日暮里2-32-20 TEL 03-3807-9347
株式会社 佐久間 代表取締役社長 佐 久 間 仁 宣 千葉県四街道市四街道1544-2 TEL 043-420-6501	株式会社 中商ホールディングス 代表取締役 中 上 剛 福島県白河市白坂鶴子山66番地1/2F TEL 0248-28-2942	株式会社 ブシュー 代表取締役 近 藤 豊 埼玉県新座市野火止1-13-41 TEL 048-479-7578



謹 賀 新 年

本年もよろしくお願い申し上げます。

令和 7 年 1 月

(アイウエオ順)

株式会社 二見 代表取締役社長 須 長 勇 太 神奈川県小田原市中町3-13-22 TEL 0465-23-3125	株式会社 丸十商店 代表取締役 高 橋 徳 行 東京都足立区本木2-10-1 TEL 03-3849-7201	株式会社 山 博 代表取締役 山 室 新 太 郎 東京都台東区元浅草3-8-4 TEL 03-3845-2828
北越パレット 株式会社 代表取締役社長 北 地 晃 千葉県市川市塩浜3-14-1 TEL 047-397-3115	株式会社 水 越 代表取締役 水 越 謙 太 郎 〒316-0036 茨城県日立市鮎川町2-1-35 TEL 0294-36-2545 FAX 0294-35-8121 http://www.mizukoshi-re.co.jp/	株式会社 山 室 代表取締役社長 畑 純 一 東京都台東区元浅草2-2-15 TEL 03-3844-8191
株式会社 もっかいトラスト 代表取締役社長 長 谷 川 裕 一 埼玉県春日部市南栄町15-9 TEL 048-754-6298	皆川商事 株式会社 代表取締役社長 皆 川 三 彦 東京都板橋区舟渡1-9-11 TEL 03-3968-2427	
株式会社 増田商店 代表取締役 増 田 唯 之 専務取締役 増 田 悦 宏 東京都葛飾区立石2-23-17 TEL 03-3694-8824	美濃紙業 株式会社 代表取締役会長 近 藤 勝 代表取締役社長 近 藤 行 輝 東京都足立区千住東2-23-3 TEL 03-3882-4922	
松岡紙業 株式会社 代表取締役社長 佐 藤 元 彦 静岡県富士市蓼原110 TEL 0545-63-1212	むさし野紙業 株式会社 代表取締役社長 小 林 哲 也 埼玉県川越市大字下広谷404-1 TEL 049-239-3456	
株式会社 丸栄商店 代表取締役 金 井 篤 史 茨城県古河市尾崎11-2 TEL 0280-76-2690	株式会社 村松紙業 代表取締役 村 松 修 神奈川県横須賀市舟倉2-2-8 TEL 046-835-8562	
株式会社 丸興佐野錦一商店 代表取締役会長 佐 野 一 代表取締役社長 相 田 寛 文 静岡県富士市五貫島546 TEL 0545-65-6277	森田紙業 株式会社 代表取締役社長 森 田 臣 東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎2113 TEL 042-557-0864	

の
後
記編
集
人

みなさま、あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「観点」とは、物事を考える際の視点や立場を指します。この観点は、情報を解釈し、判断を下す上で重要な役割を果たします。同じ問題であっても、どの観点から見るかで導かれる結論や解答は大きく異なります。

令和7年は、私たちにとって「観点を変える」節目の年です。50年以上にわたり続けてきた「古紙を買い集める」という従来の優先事項を見直し、「人材確保」を最優先とする観点へと転換します。

第一の観点：人材確保

人材確保を実現するためには、更なる賃上げと休日日数の増加が欠かせません。そのため、これまで古紙調達に充ててきた資金の優先順位を見直し、人材確保に大規模な投資を行います。この決断は、従来の資金運用を根本的に変え、古紙調達を第2の優先事項へと移行することを意味します。

第二の観点：付加価値の増加

賃上げや休日数増加は、固定費の上昇を伴います。これに対応するためには、付加価値を増やして十分な利益を確保する必要があります。古紙の調達量を増やすだけでは達成

できないため、古紙以外の新たな収益源を開拓し、客数と客単価を増やすことで付加価値を高める戦略を推進します。

第三の観点：業務プロセスの見直しと省人化投資

就労人口が減少し続ける中、賃上げや休日数の増加だけでは人口減少の影響を完全に克服することは難しい現状です。そこで、新たな観点として業務プロセスを見直し、省人化を目指した設備投資を進めます。これにより、限られた人員でも高い生産性を維持できる体制を構築します。

総括

これら3つの観点を実現するためには、「人的資本経営」を実践し、人材の育成やスキルアップに力を注ぐことが不可欠です。優秀な人材を確保するだけでなく、育成を通じて組織全体の能力を向上させることを目指します。

令和7年は、「観点を変える」年です。広報誌『かんとう』は、引き続きこの変化とダイナミズムをみなさまにお伝えできるよう努めてまいります。

本年も変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、
よろしくお願い申し上げます。

(編集人／斎藤大介)

東京都西支部 研修旅行 福井県



紙祖神 大瀧神社にて



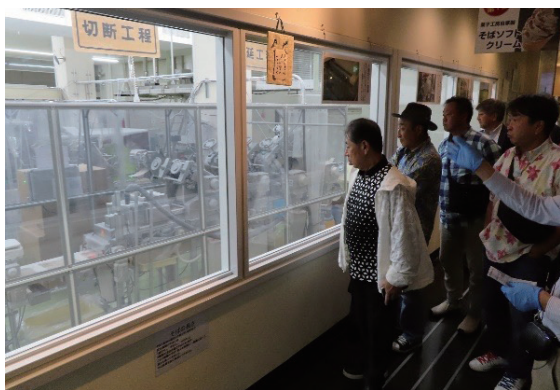
光る君へ 越前 大河ドラマ館にて



紙漉き体験



紙漉き体験の様様



越前そば 工場見学風景



天空の城 VR体験



永平寺にて



一乗谷朝倉氏遺跡博物館にて

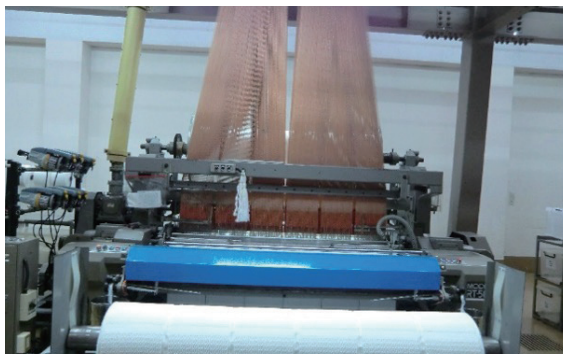
埼玉県支部 研修旅行 愛媛県



地元特産の大島石で作られた「村上海賊の娘」石碑



日常と別世界のタオル美術館に満足



巨大な機織り機のようなマシン



中日水産にて餌やり体験

茨城県支部 研修視察旅行 香川県・徳島県



日誠産業 工場内にて集合写真



搬入された牛乳パックプレス



分別されたフィルムプレス



脱水・形成後のパルプシート